

長野県子どもと子育て家庭の生活実態調査 報告書

令和5年2月

長野県 県民文化部 こども若者局

目次

1. 調査概要及び結果の読み方	1
2. 調査結果概要	3
3. 回答者の属性	8
(1) 属性・居住地域	8
(2) 世帯の状況	9
4. 保護者調査結果	23
(1) 保護者の就労状況	23
(2) 教育に関すること	27
(3) 保護者と子どもの健康状態など	30
(4) 子育てにかかる費用	38
(5) 子どもとのかかわり	40
(6) 家庭での生活	43
(7) 保護者のこれまでの経験と現在の気持ち	51
(8) 公的支援の利用状況など	59
(9) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響	90
(10) 意見等	95
5. 子ども調査結果	98
(1) 属性・居住地域	98
(2) 将来のこと	102
(3) ふだんの生活	107
(4) 生活のことや食事・健康	125
(5) アルバイトなどの仕事（16・17歳）	133
(6) 学校や勉強・進学などに関すること（小学1年以外）	136
(7) 子どもの心身の状態（小学1年以外）	151
(8) 悩みや相談（小学1年以外）	162
(9) サービスや支援策の利用・関心（小学1年以外）	167
(10) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響（小学1年以外）	180
(11) 意見等（小学1年以外）	185
6. 支援機関等調査結果	187
(1) 回答者の状況	187
(2) 経済的困難を抱える子どもの把握及び支援	189
(3) 子どもの貧困対策の推進	194
(4) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響	196
付属資料（調査票）	201

設問目次

保護者調査

問 1	あなたの住んでいる市町村を教えてください。	8
問 2	お子さんとあなた（回答者）との関係は、以下のどれになりますか。お子さんからみた続き柄で、お答えください。	9
問 3	あなたの年齢を教えてください。	9
問 4	現在のあなたの婚姻状況を教えてください。	10
問 4-1	前問で「2 離婚」を選んだ場合、離婚相手と子どもの養育費の取り決めをしていますか。また養育費を現在受け取っていますか。	11
問 5	お子さんと同居しているご家族の人数を教えてください（あなたとお子さんも含む）。単身赴任しているご家族や学業のために世帯を離れているお子さんがいる場合には、ご家族の人数に含めてお考えください。	12
問 6	お子さんと同居しているご家族の方は、どなたですか。それぞれ、人数もお教えてください。（単身赴任中の家族や学業のために世帯を離れているお子さんを含む）	13
問 7	あなたのご家族のうち、現在単身赴任中の方はいらっしゃいますか。	14
問 8	お子さんと同居しているご家族の中に、高齢であったり障がいがあったりするなど、介護が必要な方はいますか。	14
問 9	あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。また、aが「1 頼れる人がいる」場合、それはだれですか。	15
問 10	お子さんのご両親の国籍を、それぞれ教えてください。	18
問 11	あなたの世帯で、次のような公的年金、社会保障給付金の1回あたりの支給額はいくらですか。	19
問 12	前年（2021年1～12月）のあなたの世帯全体の可処分所得（手取り）総額は、合計でおおよそいくらですか。就労による所得（会社員の方等は住民税を引く）に加え、児童手当・児童扶養手当等・雇用保険等の支給額や、特別定額給付金（新型コロナウイルスに係る給付金）、親族等からの仕送り等を足した金額でお答えください。	20
問 22	現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。	21
問 13	お子さんのご両親の就労状況について、あてはまるものを回答してください。	23
問 13-1	前問で「5 働いていない」と答えた場合、働いていない主な理由を教えてください。	25
問 14	お子さんに、どの段階までの教育を受けさせたいと考えていますか。あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。	27
問 14-1	前問の②現実的な教育段階で、そのように答えた理由を選んでください。（小学1年以外）	29
問 15	あなたの健康状態についてお伺いします。	30
問 16	過去1年間に、お子さんを医療機関で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか。	30
問 16-1	「1 あった」と回答した方にお伺いします。その理由は、何ですか。	31
問 17	次の質問について、あなたの気持ちをお聞かせください。	32
問 18	子育てをする上で、あなたが大変だと感じていること、悩んでいることを選んでください。	35
問 19	お子さんの教育費のうち負担が重いものは何ですか。	38
問 20	新型コロナウイルス感染症が拡大する以前、あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。	40
問 21	全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。	43
問 23	あなたの家庭では、過去1年間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料を買えないことがありましたか。	43

問 24	あなたの家庭では、過去1年間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣類を買えないことがありましたか。	44
問 25	過去1年間に、経済的な理由で、以下のサービス・料金について、支払えないことがありましたか。	44
問 26	あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。	46
問 27	次のもののうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか。	49
問 28	お子さんの親の最終学歴（卒業・修了した学校）は次のどちらにあたりますか。	51
問 29	あなたが15歳の頃のご家庭の様子に最も近いものに○をつけてください。	53
問 30	あなたが15歳の頃の、あなたのご家庭の暮らし向きについて、最も近いものに○をつけてください。	54
問 36	次の質問について、この1か月間のあなたの気持ちはどのようでしたか。	55
問 31	あなたは、子どもに関する施策等の情報を、今後、どのような方法で受け取りたいですか。	59
問 32	封筒の宛名のお子さんについて、以下の支援制度等をこれまでに利用したことがありますか。利用したことがない場合は、その理由に最も近いものに○をつけてください。	61
問 33	今後、充実を希望する子育て支援サービスは何ですか。	73
問 34	あなたのご家庭では、以下の支援制度等を、これまでに利用したことがありますか。利用したことがない場合は、その理由に最も近いものに○をつけてください。	76
問 35	あなたは、これまでに困った時に以下の公的機関に相談したことがありますか。	83
問 37	あなたのご家庭の現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校する前（2020年2月以前）から比べて、どのように変わりましたか。	90
問 38	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、次のようなことを経験しましたか。	92
問 39	あなたが今、子育てで困っていることや悩みごと、子育てに関する意見がありましたら、ご自由にお書きください。	95

子ども調査

問 1	あなたが住んでいる市町村を教えてください。（小学1年以外）	98
問 2	あなたの性別を教えてください。	98
問 3	あなたの身長・体重を教えてください。	98
K問 4	あなたは、現在学校に在籍していますか。（16・17歳のみ）	101
K問 5	あなたは、現在働いていますか。（16・17歳のみ）	101
問 4	あなたは、将来の夢（小学5年・中学2年）や将来になりたい職業（16・17歳）がありますか。（小学1年以外）	102
問 4-1	将来の夢（小学5年・中学2年）や将来になりたい職業（16・17歳）が「2 ない」と答えた人にお聞きします。その理由は何ですか。（小学1年以外）	103
K問 7	あなたは、今後、進学を希望する学校がありますか。（16・17歳のみ）	105
K問 7-1	今後の進学を希望する人にお聞きします。希望する学校に進学する予定はありますか。（16・17歳のみ）	106
問 5	あなたは、週にどのくらい風呂に入りますか。（シャワーだけでも含みます）	107
問 6	あなたは、平日（学校や仕事に行く日）の放課後や自由時間は、だれと一緒に過ごすことが一番多いですか。	107
問 7	あなたは、平日（学校や仕事に行く日）の放課後や自由時間は、どこで過ごすことが一番多いですか。	108
問 8	前問で答えた、あなたが平日（学校や仕事に行く日）の放課後や自由時間を過ごす場所に、大人はいますか。	110
K問 12	あなたは、学校や職場・地域のクラブやスポーツ活動に参加していますか。	111
K問 12-1	前問で「2 していない」と答えた人にお聞きします。参加しない理由は何ですか。	111
問 9	あなたは、休日（学校や仕事がお休みの日）の午後は、だれと一緒に過ごすことが一番多いですか。	113

問 10	あなたは、休日（学校や仕事がお休みの日）の午後は、どこで過ごすことが一番多いですか。	114
問 11	前問で答えた、あなたが休日（学校や仕事がお休みの日）の午後過ごす場所に、大人はいますか。	115
問 12	あなたにとって、一番ほっとできる居場所はどこですか。（小学1年以外）	116
問 13	あなたは、以下の活動を、ふだんどれくらいしますか。	117
問 14	あなたは、30分以上からだを動かす遊びや習い事を、1週間でどれくらいしますか。	124
問 15	全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。（小学1年以外）	125
問 16	あなたは週にどのくらい、食事をしていますか。	126
問 17	あなたは、平日（学校や仕事に行く日）の夕食をだれと食べますか。	128
問 18	あなたは、自分の健康状態についてどう感じていますか。（小学1年以外）	129
問 19	あなたは、今、虫歯がおおよそ何本くらいありますか。治療中のものも含みます。	131
問 20	あなたは、平日（学校や仕事に行く日）、ほぼ同じ時間に寝ていますか。（小学1年以外）	132
K問 25	あなたの仕事の状況（学生アルバイトを含む）を教えてください。あなたは、収入を伴う仕事（学生のアルバイトを含む）をしていますか。（16・17歳のみ）	133
K問 25-1	収入を伴う仕事（学生のアルバイトを含む）をしている方にお聞きします。あなたの現在のお仕事の雇用形態を教えてください。複数のお仕事をお持ちの場合は、主な仕事についてお答えください。（16・17歳のみ）	133
K問 25-2	時給にするとどのくらいになりますか。（16・17歳のみ）	134
K問 25-3	現在は、1週間あたり、平均何時間働いていますか。残業時間を含めてお答えください。（16・17歳のみ）	134
K問 25-4	収入を伴う仕事（学生のアルバイトを含む）をしている方全員にお聞きします。給料（アルバイト代）を何に使っていますか。	135
K問 26	あなたの在籍する（在籍していた）学校の種類を教えてください。（16・17歳のみ）	136
K問 26-1	その学校に進学したのはなぜですか。（16・17歳のみ）	136
問 21	あなたは、学校生活が楽しい（楽しかった）ですか。（小学5年・中学2年のみ）	138
問 21-1	前問で「3 あまり楽しくない」、「4 楽しくない」と答えた人にお聞きします。学校が楽しくない理由は、何ですか。（小学5年・中学2年のみ）	139
問 22	あなたは、学校の授業がわかりますか。	141
問 22-1	前問で「3 教科によってはわからないことがある」「4 わからないことが多い」「5 ほとんどわからない」と答えた方にお聞きします。いつごろから、授業がわからなくなりましたか。	142
問 23	勉強がわからない時は、だれに教えてもらいますか（教えてもらいましたか）。	143
問 24	あなたは、将来どの学校まで行きたいと思いますか。（小学5年・中学2年のみ）	145
問 24-1	前問で1～4と答えた場合、その理由を教えてください。（小学5年・中学2年のみ）	146
問 25	あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。	147
問 26	あなたは、ふだん、学校の授業以外にどれくらいの時間、勉強をしますか。1日あたりの勉強時間を教えてください。	148
問 27	あなたの成績は、クラスの中でどれくらいだと思いますか。	150
問 28	あなたの思いや気持ちについて教えてください。	151
K問 34	あなたは、これまでに、以下のような理由で、学校をやめたくなるほど、悩んだことがありますか。その理由にあてはまるものがありましたら、すべて○をつけてください。（16・17歳のみ）	157
問 29	学校に行きたくないと思ったことがありますか。（小学5年・中学2年）	159
問 30	あなたは、自分や家族のことでなやみや心配ごとがありますか。	162
問 31	あなたは、悩みや心配事があるとき、だれに相談しますか。	165
問 32	あなたは、以下のような場所があれば使ってみたいと思いますか。	167
問 32-1	前問で、1つでも「1 利用したことがある」と答えた方にお聞きします。そこを利用したことで、以下のような変化がありましたか。	174

問 33	あなたは、大人から次のようなことをされて、いやな思いやつらい思いをしたことがありますか。.....	175
問 33-1	前問で1～3を答えた人にお聞きします。いやな思いをしたときに、だれかに相談しましたか。.....	176
問 33-2	前問で1を答えた人にお聞きします。相談した人や場所を教えてください。.....	177
問 34	あなたの現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が休校になる前（2020年2月以前）と比べて、どのように変わったと思いますか。.....	180
問 35	あなたが、県や市町村に何でも要望できるとすれば、どのようなことを要望しますか。また、日々の生活で感じていること、困っていることなどを自由に書いてください.....	185

支援機関等調査

問 1	あなたの所属先または、あなた自身について、あてはまるものを一つ選んでください。.....	187
問 2	あなた（貴団体）の所在地はどちらですか。.....	187
問 3	現在実施している支援内容を教えてください。.....	188
問 4	関わる業務の中で経済的困難を抱える子どもを把握していますか。.....	189
問 5	【問4で「はい」と答えた方】それはどのような経路で把握しましたか。.....	189
問 6	そのような家庭の子どもはどのような状況におかれていましたか。.....	190
問 7	支援を行う上でどのようなことに気をつけていますか。（自由記載）.....	190
問 8	支援を行う中で、どのような難しさを感じていますか。.....	191
問 9	経済的困難を抱える子どもを支援する上で他機関と連携していますか。.....	192
問 10	【問9で「常に連携している」、「必要に応じて連携している」と答えた方】支援を行う上での連携先を教えてください。.....	192
問 11	問10で答えた連携先との連携方法を教えてください。.....	193
問 12	【問9で「あまり連携していない」、「連携していない」と答えた方】連携しない、できない理由をおしえてください。.....	193
問 13	経済的困難を抱える子どもや保護者のためにどのような支援・制度が必要だと考えますか。.....	194
問 14	支援を充実していくために、関係機関がどのように連携していったらいいと考えますか。.....	195
問 15	業務や活動に新型コロナウイルス感染症の影響はありましたか。.....	196
問 16	具体的にどのような影響がありましたか。.....	196
問 17	コロナ以後（2020年2月以降）で保護者からの相談で増加した相談内容はなんですか。.....	197
問 18	コロナ以後（2020年2月以降）で子どもからの相談で増加した相談内容はなんですか。.....	198
問 19	経済的な問題で困難を抱える子どもや家庭に対する支援について、ご意見（県へ具体的に希望される支援策等）がありましたら自由にご記入ください。.....	199

1. 調査概要及び結果の読み方

長野県では、今後の子ども・子育て支援・次世代育成支援施策の参考とするため、子どもと子育て家庭の生活状況などに関する「子どもと子育て家庭の生活実態調査」を令和4年6～7月に実施した。

[調査概要]

調査対象	長野県内の 37 自治体(13 市 11 町 13 村)に在住の小学1年、小学5年、中学2年、16・17歳の県民(高校2年及び高校に在籍していない同年齢の子どもを含む)本人とその保護者 12,000 世帯(※小学1年は保護者のみ)
抽出方法	住民基本台帳により無作為抽出(対象学年の人口比に基づき抽出数を按分)
調査方法	郵送による配布・回収
調査期間	令和4年6月 28 日から7月 11 日まで(7月 25 日到着分まで調査期間を延長)
回答状況	子ども本人 1,962 人(21.8%)、保護者 3,131 人(26.1%)
有効回答数	子ども本人 1,955 人(21.7%)、保護者 3,127 人(26.1%)

[本調査における「生活困難」の取扱いについて]

本調査では、子どものいる世帯の「生活困難」について、以下の①②③の3つの要素の回答状況に基づいて分類した。

①低所得	世帯の可処分所得(収入による可処分所得+児童手当等の支給額等)、世帯人数と組み合わせた分類表で、分類Ⅰ又はⅡに該当する場合(次頁の表を参照) ただし、低所得世帯の割合は、可処分所得の把握方法の違いがあるため、厚生労働省発表の子どもの貧困率と比較できるものではない
②家計の逼迫	7項目(電話・電気・ガス・水道の公共料金、家賃、食料・衣類の購入)について、経済的な理由で払えなかった、または買えなかったことが1つ以上ある場合
③子どもの体験や所有物の欠如	子どもの体験や所有物など 15 項目のうち、経済的な理由でしていない、金銭的な理由でないなど欠如する項目が3つ以上ある場合(次頁の表を参照)

①②③の3つの要素の回答状況から区分し、以下のように分類している。

①②③で2つ以上の要素に該当 = **困窮家庭** 1つの要素に該当 = **周辺家庭**
 該当なし = **一般家庭** と分類している。(無回答等により分類できない世帯は除く。)
 また、困窮家庭と周辺家庭を併せて「生活困難家庭」としている。

生活困難家庭	困窮家庭+周辺家庭
困窮家庭	2つ以上の要素に該当
周辺家庭	いずれか1つの要素に該当
一般家庭	いずれの要素にも該当しない

[「①低所得」の要素の補足説明]

国民生活基礎調査(厚生労働省)では、貧困線所得額(万円単位で把握)、課税等の額(千円単位で把握)ならびに世帯人員数の情報から、「等価可処分所得」を算出し、等価可処分所得の中央値の半分の額を貧困線として定めている。(貧困線は、2人世帯の可処分所得額としては 175 万円に相当)これを参考に、本調査では以下のように可処分所得の水準を設定し、選択肢で可処分所得の幅を把握している。そして、世帯員人数別に、分類Ⅰ・Ⅱまでを回答した世帯を低所得世帯とした。(前回調査と同水準で集計)

[参考：本調査での世帯員人数別可処分所得の水準]

世帯員 人数	可処分所得の水準						(参考) 国の貧困線 の基準 (平成 30 年)
	分類Ⅰ	分類Ⅱ	分類Ⅲ	分類Ⅳ	分類Ⅴ	分類Ⅵ	
1人	60万円未満	120万円未満	180万円未満	240万円未満	300万円未満	300万円以上	127万円
2人	85万円未満	175万円未満	260万円未満	345万円未満	430万円未満	430万円以上	175万円
3人	105万円未満	210万円未満	315万円未満	420万円未満	525万円未満	525万円以上	210万円
4人	120万円未満	245万円未満	365万円未満	485万円未満	605万円未満	605万円以上	245万円
5人	135万円未満	275万円未満	410万円未満	545万円未満	680万円未満	680万円以上	275万円
6人	150万円未満	300万円未満	450万円未満	600万円未満	750万円未満	750万円以上	300万円
7人	160万円未満	325万円未満	485万円未満	645万円未満	805万円未満	805万円以上	325万円

※所得による分類の区分は前回調査同様に、平成 28 年国民生活基礎調査を参考とした

〔**③**子どもの体験や所有物の欠如〕の要素の 15 項目〕

①海水浴に行く	⑨学習塾に通わせたり、通信教育を受ける(または家庭教師に来てもらう)
②博物館・科学館・美術館などに行く	⑩お誕生日のお祝いをする
③キャンプやバーベキューに行く	⑪1年に1回くらい家族旅行に行く
④スポーツ観戦や劇場に行く	⑫クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる
⑤遊園地やテーマパークに行く (16・17 歳は「友人と遊びに出かけるお金」)	⑬子どもの年齢に合った本
⑥毎月お小遣いを渡す	⑭子ども用のスポーツ用品・おもちゃ
⑦毎年新しい洋服・靴を買う	⑮子どもが自宅で宿題をすることができる場所
⑧習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる	

[その他]

- ・調査結果の選択肢の文章について一部省略して表記している箇所がある。
- ・生活困窮度別のグラフでは、生活困窮度の判定ができなかった回答は、グラフの「全体」の数に含まれている。このため、一般家庭、周辺家庭、困窮家庭の合計と全体の数は一致しない。
- ・子ども本人による有効回答数は 1,955 人で、それを母数に子ども本人の回答結果を示している(小学1年保護者の回答分を含める場合は 3,021 人)が、生活困難状況の集計による子どもの回答については、保護者の回答と突合して生活困難状況を集計するため、子どものみ回答した調査票を除いている。
- ・各設問の帯グラフは少数点1位で表示しており、一部 100%とならないところがある。棒グラフは複数回答のため、合計が 100%を超えるものがある。
- ・文中の「前回」とは平成 29 年度に実施した長野県子どもと子育て家庭の生活実態調査のことである。調査対象・方法、生活困窮状況の把握等は前回と同様に今回も実施しており、回答状況と比べ、相対的に有意な差があった結果を中心に記述している。

[参考：前回調査概要]

調査対象	長野県内の 50 市町村在住の小学 1 年(保護者のみ)、小学5年、中学 2 年、16・17 歳県民本人とその保護者 12,000 世帯を無作為抽出
調査期間	平成 29 年8月 10 日から9月 25 日まで
有効回答数	子ども本人 2,366 人(26.3%)、保護者 3,589 人(29.9%)

2. 調査結果概要

子どもと子育て家庭の生活状況について、「世帯の可処分所得」、「家計の逼迫状況」、「子どもの体験や所有物の欠如の状況」から世帯の生活困難状況を区分し、子どもの学年、世帯構成等で分析を行った上で前回調査(平成29年実施)結果との比較を行った。

調査結果では、子育て家庭の生活困難状況や世帯の家計状況等による子どもの学習面・生活面・心理面などへの影響がみられるとともに、生活困難家庭では子ども・保護者ともに多様な困難を抱える場合が多いことや、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、生活状況が厳しくなっていることも見受けられる。

①分析結果

[保護者の生活状況]

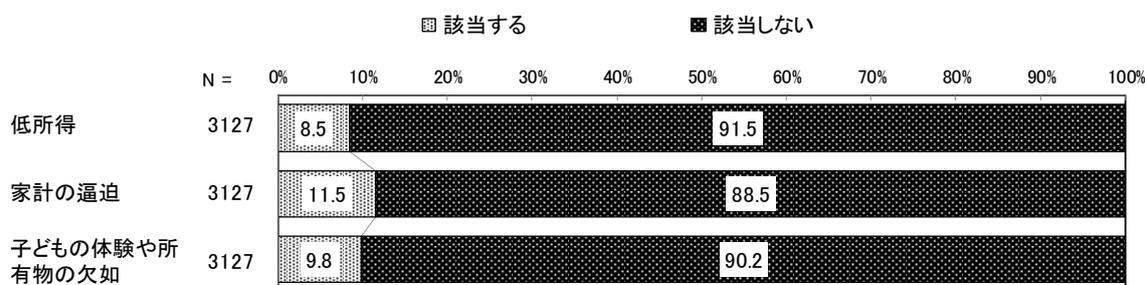
○子どもの親の婚姻状況は、「結婚している(事実婚を含む)」が91.4%、「離婚」が6.7%、「死別」が0.9%、「未婚・非婚」が0.6%である。『結婚していない』(「離婚」、「死別」、「未婚・非婚」の計)割合は全体で8.2%であり、生活困難家庭で多くみられる。(P10参照)

○生活困難家庭では、暮らしの状況や家計の逼迫などで多様な課題を抱えている回答が多くみられる。(P21~22、43~45参照)

現在の暮らしの状況について「やや苦しい」「大変苦しい」と回答した割合は、一般家庭は22.2%だが、周辺家庭では63.5%、困窮家庭では88.5%である。

「食料が買えなかった経験」や「衣類が買えなかった経験」は、困窮家庭で前回と大きな差はみられないものの、依然として多い割合となっている。「食料が買えなかった経験」「衣類が買えなかった経験」「電話料金」「電気料金」「ガス料金」「水道料金」「家賃」のいずれか1つ以上で未払いが発生している割合は、一般家庭では0.0%だが、周辺家庭では38.8%、困窮家庭では87.2%と多い。

生活困難状況の3要素[%]



○保護者の学歴、就労状況と子育て家庭の現在の所得水準、子どもとの関わりや家庭でしていることに関連がみられた。(P20、23~26、40~42、51~52参照)

母親の最終学歴は、「大学」が一般家庭では28.4%であったのに対し、周辺家庭では16.2%、困窮家庭では14.5%であった。父親の最終学歴も、「大学」が一般家庭で42.0%であったのに対し、周辺家庭では25.8%、困窮家庭では11.5%であった。

母親が働いていない理由として「自分の病気や障がいのため」と回答した割合は、一般家庭では5.8%であったのに対し、周辺家庭では18.3%、困窮家庭では36.4%であった。

所得水準が低いと、「子どもとの関わりや子どもに家庭でしていること」は少なくなる傾向があり、子どもの文化的な活動や体験の機会に差が生じている。

○保護者が考える子どもの「理想的な教育段階」と「現実的な進学段階」には差があり、その差が生じる理由として、生活困難家庭ほど経済的理由の回答割合が多い。(P27~29 参照)

子どもの理想的な教育段階を「大学またはそれ以上」と回答した割合は、一般家庭では 73.4%であったのに対し、周辺家庭では 55.0%、困窮家庭では 44.7%であった。また、現実的な教育段階を「大学またはそれ以上」と回答した割合は、一般家庭では 50.0%であったのに対し、周辺家庭では 26.7%、困窮家庭では 10.7%であり、そのように考える理由として、「家族の経済的な状況から考えて」と回答した割合は、一般家庭では 11.4%であったのに対し、周辺家庭では 25.9%、困窮家庭では 51.5%であった。

○困窮家庭では頼る人がいない、不安を抱えながら子育てをしていることがうかがえる。(P15~17 参照)

子育てに関する相談やお金の援助を頼れる人の有無について、子育てに関する相談相手が「いない」と回答した困窮家庭の割合は 10.2%、お金の援助についても頼れる人が「いない」と回答した困窮家庭の割合は 31.9%となり、他の区分と比べて多い。

○生活困難家庭では心身の健康状態の不安定さにより、生活への影響がうかがえる。(P30、55~58 参照)

保護者自身の健康状態は、一般家庭では「よい」が 49.8%と多く、「まあよい」と「普通」を合わせると 90%を超えるが、困窮家庭では「よい」が 33.2%と少なく、「まあよい」と「普通」を合わせると 78.8%である。保護者の心理状況に関する項目を点数化したうつ・不安障害の傾向の強い「要注意・要治療」に該当する割合は、一般家庭では 14.5%だが、周辺家庭では 29.0%、困窮家庭では 43.4%となっている。

[子ども生活実態、課題等]

○将来の夢・なりたい職業が「ある」子どもの割合は前回よりもやや少なく、学年が上がるにつれて少なくなる傾向は前回と同様である。また、自分の将来が楽しみだと「とても思う」と「思う」を合わせた子どもの割合も学年が上がるにつれて少なくなる傾向は前回と同様である。(P102~104、P155 参照)

将来の夢・なりたい職業の有無については、「ある」が 67.0%、「ない」が 32.2%となっているが、「ある」と回答した割合は、小学5年は 77.8%、中学2年は 60.0%、16・17 歳は 60.7%となっている。前回の全体と比べて、「ある」が 5.6%少なくなり、各学年で前回よりも少なくなっている。

また、自分の将来が楽しみだと「とても思う」と「思う」を合わせた割合は、小学5年は 80.4%となっているが、中学2年は 63.0%、16・17 歳は 63.6%である。

○子どもの進学に関する意識は、世帯の状況により大きく異なっている。(P106、145 参照)

進学したい教育段階は、小学5年と中学2年で「大学またはそれ以上」と回答した割合が一般家庭では 45.4%であったのに対し、周辺家庭では 28.9%、困窮家庭では 21.4%であった。16・17 歳では「四年制大学」と回答した割合は、一般家庭では 70.4%であったのに対し、周辺家庭では 50.7%、困窮家庭では 35.3%であった。

○授業以外の勉強、クラスでの成績について、生活困難家庭で「しない」「下の方」が多く、学ぶ意欲との関係がみられる。また、学校の授業について、生活困難家庭ほど理解度が低い傾向がある。(P148~150 参照)

「学校の授業以外で勉強はしない」と回答した割合は、一般家庭では 4.3%であったのに対し、周辺家庭では 8.4%、困窮家庭では 11.0%であった。

また、クラス内での成績について「やや下のほう」と「下のほう」を合わせた割合は、一般家庭では 17.9%であったのに対し、周辺家庭では 31.2%、困窮家庭では 39.9%であった。

学校の授業について『わからない』（「教科によってはわからないことがある」、「わからないことが多い」と「ほとんどわからない」の計）と回答した割合は、一般家庭では 25.3%であったのに対し、周辺家庭では 43.1%、困窮家庭では 52.7%であり、授業の理解度について生活困窮度別によって大きな差がある。

○生活困難家庭では、食事などの生活習慣の定着やクラブ活動への参加状況の低下傾向がみられ、生活の満足度も低調な傾向が見受けられる。（P126～128、111～112、125 参照）

「朝食」について「毎日食べる」と回答した割合は、一般家庭では 91.4%であったのに対し、周辺家庭では 84.6%、困窮家庭では 77.3%であった。「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」について「毎日食べる」と回答した割合は、一般家庭では 93.4%であったのに対し、周辺家庭では 86.6%、困窮家庭では 84.3%であった。「平日ほぼ同じ時間に寝ているか」について、「そうである」と「どちらかといえばそうである」を合わせた割合は、一般家庭では 85.1%であったのに対し、困窮家庭では 72.4%であった。

16・17 歳で部活動等に参加「していない」と回答した割合は、一般家庭では 33.2%であったのに対し、周辺家庭では 45.1%、困窮家庭では 47.1%であった。部活動等に参加していない理由として「費用がかかるから」と回答した割合は、一般家庭では 2.0%であったのに対し、困窮家庭では 8.3%であった。

生活の満足度について、「6～10」（満足度が高い方の回答）に該当する割合は、一般家庭では 88.9%であったのに対し、周辺家庭では 68.7%、困窮家庭では 63.8%であった。

[新型コロナウイルス感染症拡大による影響]

○生活困難家庭では、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている回答が多くみられ、生活状況がさらに厳しくなっている可能性がある。（P90～92、180～181 参照）

保護者調査では、新型コロナウイルス感染症の拡大による「世帯全体の収入の変化」について「減った」と回答した割合は、一般家庭では 19.3%であったのに対し、周辺家庭では 36.3%、困窮家庭では 54.9%であった。また、「あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」について「増えた」と回答した割合は、一般家庭では 28.0%であったのに対し、周辺家庭では 46.3%、困窮家庭では 56.2%であった。

子ども調査では、新型コロナウイルス感染症の拡大による変化として「学校の授業が分からないと感じること」について「増えた」と回答した割合は、一般家庭では 19.6%であったのに対し、周辺家庭では 27.4%、困窮家庭では 35.6%であった。

[支援サービスの利用状況等]

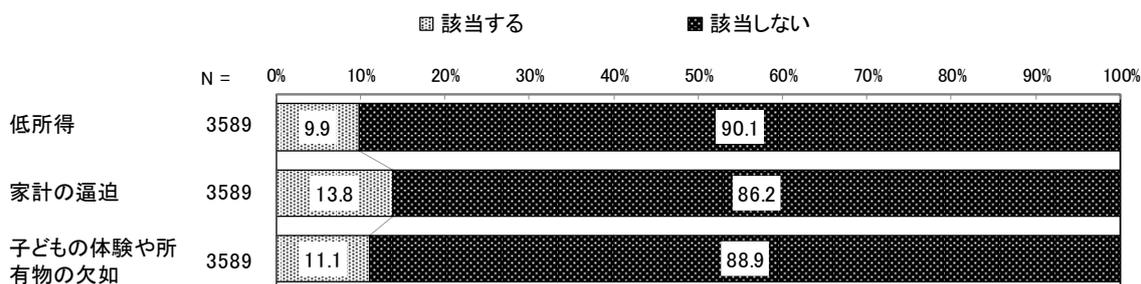
保護者の支援制度の利用状況について、困窮家庭のうち「現在利用している」と回答した割合は、「就学援助」31.5%、「児童扶養手当」27.7%である。各支援制度を利用していない理由について、「制度等についてまったく知らなかった」が各項目で最も多く回答されている。（P76～82 参照）

子どもの支援制度・居場所等の利用について、休日にいることができる場所、家で勉強ができないとき静かに勉強ができる場所、勉強を無料でみてくれる場所が関心の高いものとして回答されている。支援制度・居場所等の利用によって、「友だちが増えた」、「生活の中で楽しみなことが増えた」、「ほっとできる時間が増えた」、「勉強する時間が増えた」などの変化がみられる。（P167～175 参照）

[前回調査と比べてみられること]

- 世帯類型については、二人親二世代の核家族（二人親二世帯世帯）が前回と比べて多くなり、三世帯の世帯は前回と比べて少なく、核家族化の進行がうかがえる。（P13 参照）
- 世帯所得は400万円未満が少なくなり、700万円以上が多くなっている。母親の正職員の割合が前回よりも多くなったことが要因の一つと考えられる。一方で、生活困窮度別では、困窮家庭は210万円未満の割合が前回よりも多く、困窮家庭の母親のパート・アルバイト割合は同程度であり、困窮家庭と一般家庭の差の拡大が考えられる。（P20 参照）
- 生活困難状況の3要素の該当割合は3要素ともに前回よりやや少なくなっているものの、生活困難家庭では所得や家計の逼迫などで多様な課題を抱えている回答は前回と同様多くみられ、特に困窮家庭で多くなっている。（P21 参照）

[参考 前回調査] 生活困難状況の3要素[%]



- 保護者にとって教育費の負担感が大きいことは前回と同様の傾向であるが、困窮家庭では「学習塾、通信教育、習い事など学校以外の教育費」よりも「学級費、教材費などの学校徴収金」「制服、靴、かばんなど学校指定用品」が前回よりも多くなっており、困窮家庭における学校にかかる費用の負担感が増大傾向であることがうかがえる。（P38～39 参照）
- 保護者の情報の受け取り方について、「学校からのメール」や「SNS（LINE、ツイッターなど）」が前回より多くなり、保護者の情報の受け取り方は多様化している。（P59～60 参照）
- 保護者の相談機関や支援センターなどの利用は前回より広がっており、『相談したことがある』窓口についても多様化している。また、支援制度や子育て支援サービスの利用も前回より広がっているが、生活困難家庭で「制度について知らない」や「利用の仕方がわからなかった」などというサービスもみられる。（P82～89 参照）
- 保護者の希望する子育て支援サービスでは、「子どもの医療費の軽減の充実」は福祉医療費助成の充実などにより前回に比べて少なくなったが、「子どもの就学に係る費用の軽減」が前回よりも多くなっており、保護者が感じる子育て・教育にかかる費用の負担感の大きさがうかがえる。（P73～75 参照）
- 子どもの将来の夢・なりたい職業が「ある」子どもは前回同様に学年が上がるにつれて少なくなっており、各学年で前回よりも回答割合がやや少ない。（P102～104 参照）
- 学校をやめたくなるほど悩んだことがある子どもが前回と比べて多く、その理由として「精神的に不安定」や「友達とうまくいかない」という回答の割合が増えている。（P157～158 参照）
- 生活困難家庭の子どもでは、朝食や運動などの生活習慣の定着などが前回よりも低下傾向であり、特に困窮家庭でその傾向がみられる。また、学校が楽しくない理由で「学校に行くのが面倒」という理由が前回と比べて増えている。（P126、124、139～140 参照）

②貧困率について

○内閣府の「子供の貧困対策に関する大綱」において指標の1つに設定されている子どもの貧困率は、国民生活基礎調査における相対的貧困率が採用されており、その子が属している世帯の等価可処分所得を元に計算されている。

(平成30年国民生活基礎調査 子どもの貧困率全国値 13.5%、OECDの新基準 14.0%)

$$\text{子どもの貧困率(\%)} = \frac{\text{貧困線を下回る所得の17歳以下の世帯人員数}}{\text{17歳以下の全ての世帯人員}} \times 100$$

○当県では、世帯員別可処分所得の水準表における分類Ⅰ・Ⅱに該当する世帯が、国の貧困線基準と概ね同様となることから、全体(判定不能世帯を除く。)に占める割合として算出をすると、今回調査における長野県の子どもの貧困率(参考値)は9.7%となる。

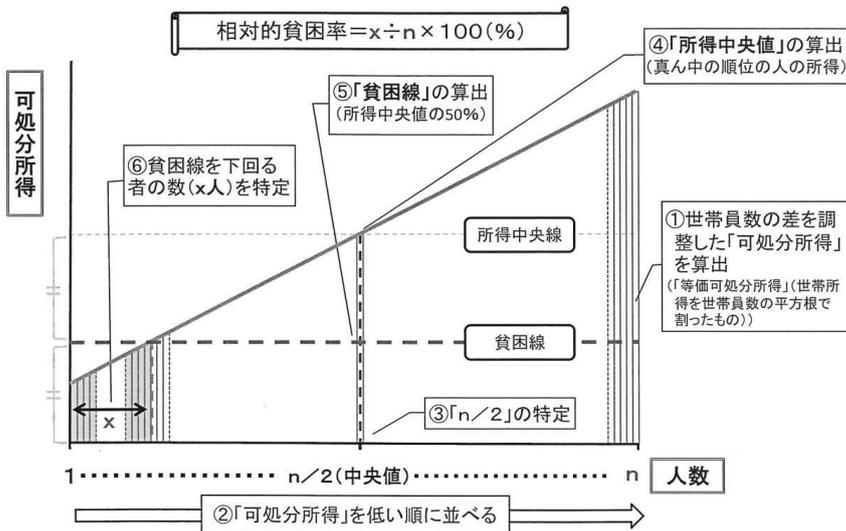
ただし、本調査は調査対象者が異なるため、国民生活基礎調査の子どもの貧困率と単純に比較することはできない。

[可処分所得分類結果(本調査)]

	全 体(判定不能等を除く)	該 当	非該当
分類Ⅰ・Ⅱ (低所得に該当)	2,747 世帯 (100.0%)	265 世帯 (9.7%)	2,482 世帯 (90.3%)

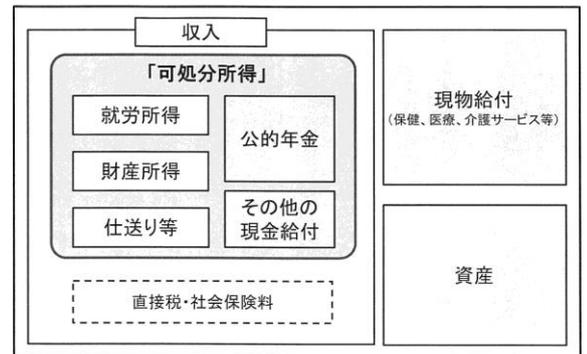
[参考:国民生活基礎調査貧困率(厚生労働省 HP)]

「相対的貧困率」…所得中央値の一定割合(50%が一般的。いわゆる「貧困線」)を下回る所得しか得ていない者の割合。



「可処分所得」:

相対的貧困率の算出に当たって用いる「可処分所得」には、以下のものが含まれる。 ※「資産」の多寡については考慮していない。



3. 回答者の属性

(1)属性・居住地域

保護者の回答では、小学1年が多く、学年が上がると回答数が減っている。子ども本人の回答では、小学5年と中学2年は35%前後で、16・17歳がやや少ない。

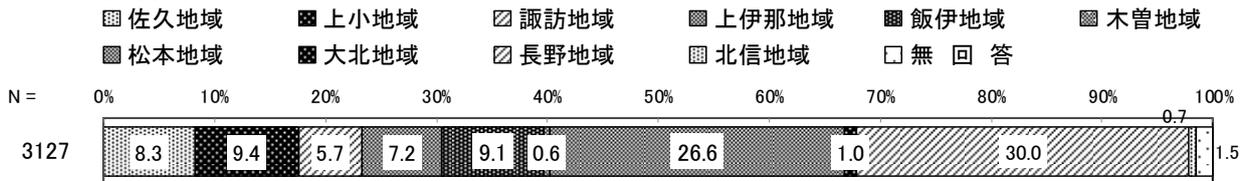
[学年別子ども、保護者の分布]

	保護者票	子ども本人票
全 体	3,127 件 (100.0%)	1,955 件 (100.0%)
小学1年	1,078 件 (34.5%)	—
小学5年	782 件 (25.0%)	749 件 (38.3%)
中学2年	690 件 (22.1%)	662 件 (33.9%)
16・17 歳	577 件 (18.4%)	544 件 (27.8%)

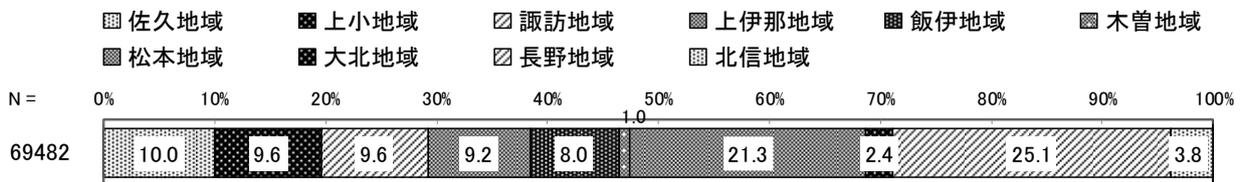
問 1 あなたの住んでいる市町村を教えてください。

10 圏域では、「長野地域」が30.0%と最も多く、「松本地域」が26.6%、「上小地域」が9.4%が続いており、対象学年の人口比に概ね近い構成となっている。

H問1 居住地[%]



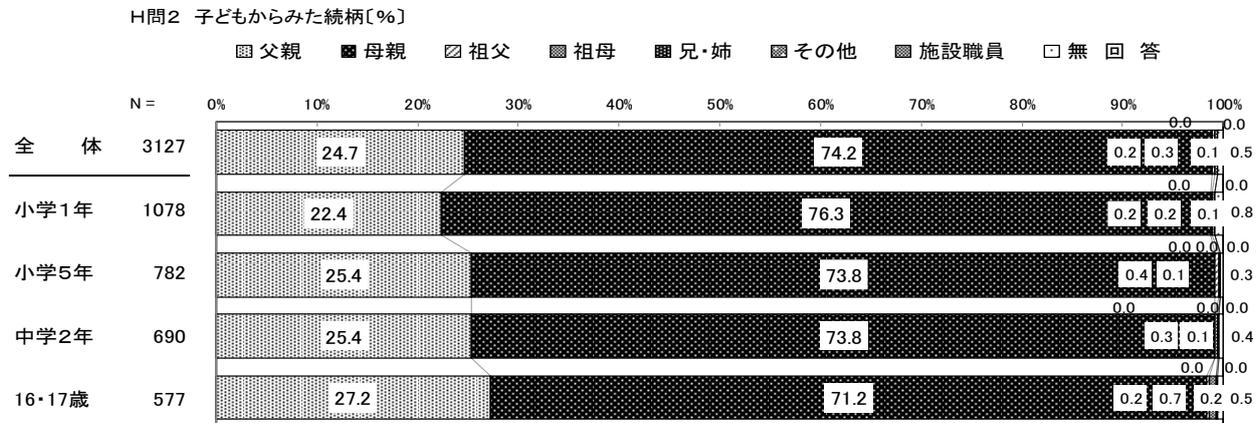
[参考:対象学年人口比(令和4年4月1日現在)]



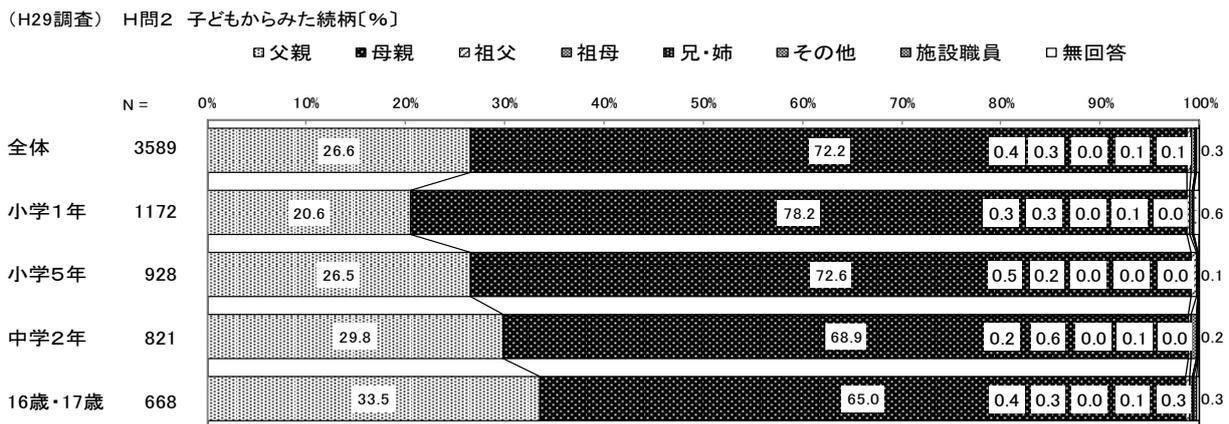
(2)世帯の状況

問2 お子さんとあなた(回答者)との関係は、以下のどれになりますか。お子さんからみた続き柄で、お答えください。

子どもからみた続き柄は、全体では母親が74.2%、父親が24.7%などとなっている。



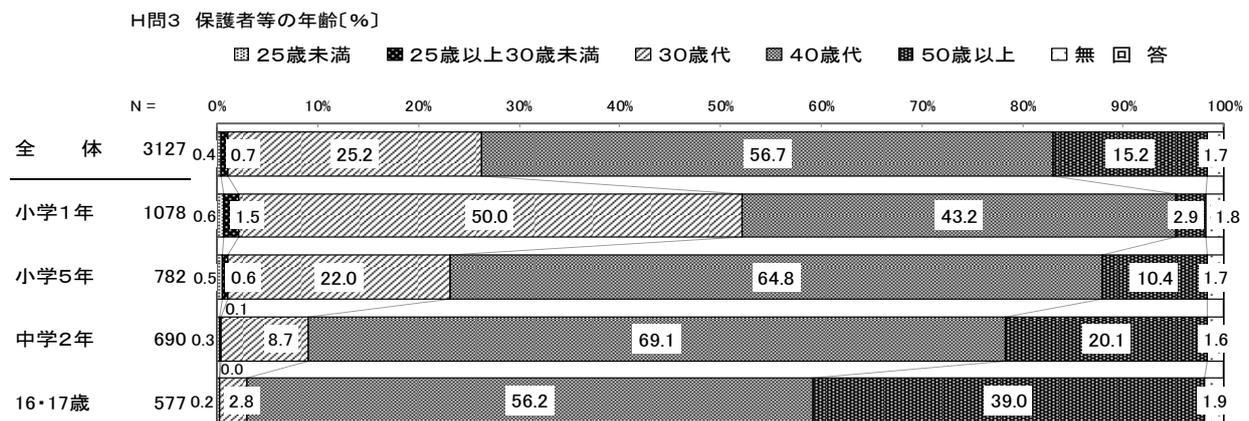
[参考: 前回調査結果]



問3 あなたの年齢を教えてください。

年齢は、「40歳代」が56.7%と最も多く、回答した保護者の平均年齢は44.0歳である。祖父母等が回答している場合などを含め、20歳代から80歳代まで回答されている。

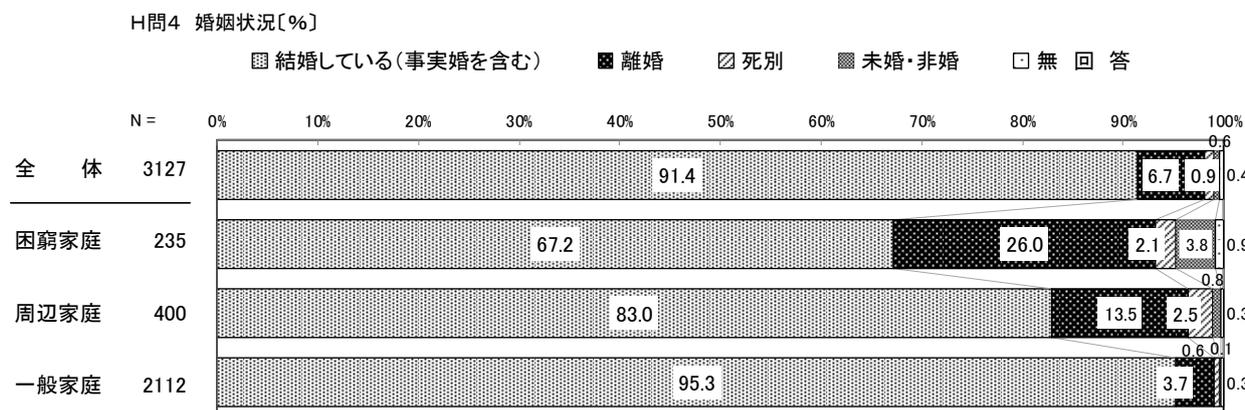
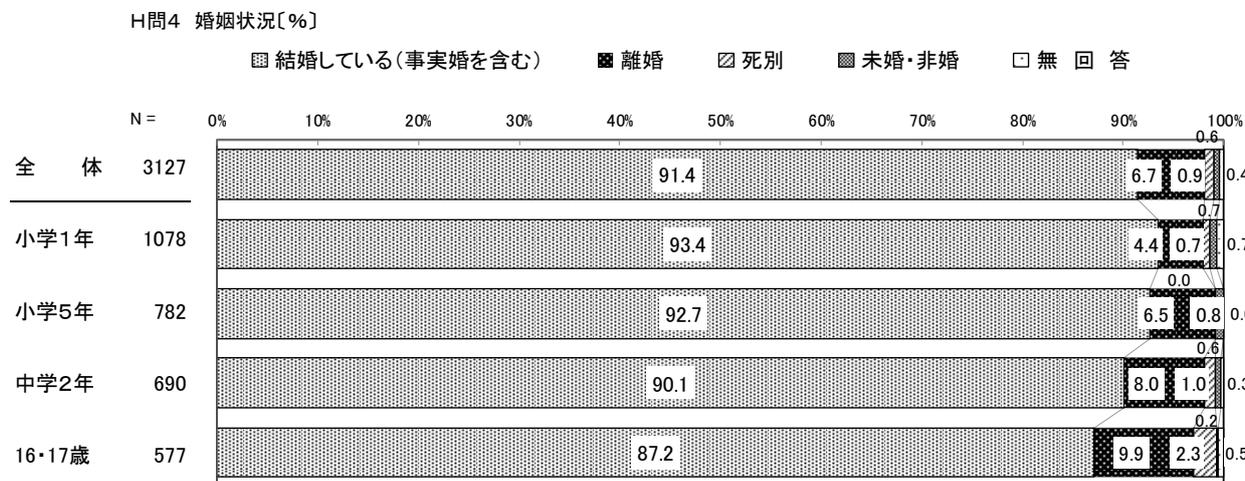
学年別では、小学1年の保護者は30歳代、小学5年以上の保護者は40歳代が多く、学年が上がると保護者の年齢も高くなっている。



問4 現在のあなたの婚姻状況を教えてください。

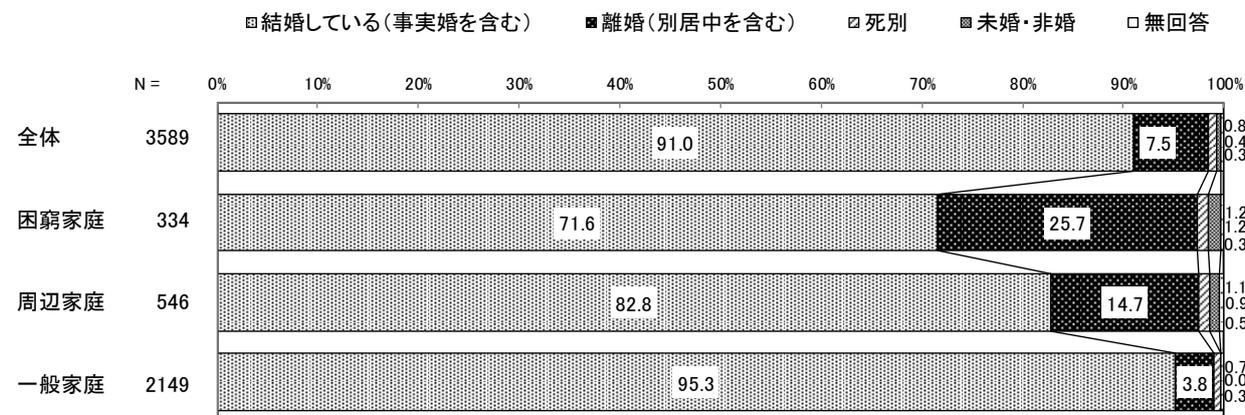
婚姻状況は、「結婚している(事実婚を含む)」は 91.4%、「離婚」は 6.7%、「死別」は 0.9%などとなっている。

学年別では、16・17歳の保護者で「結婚している(事実婚を含む)」が 87.2%、生活困窮度別では困窮家庭で 67.2%、周辺家庭で 83.0%となっている。



[参考: 前回調査結果]

(H29調査) H問4 婚姻状況[%]

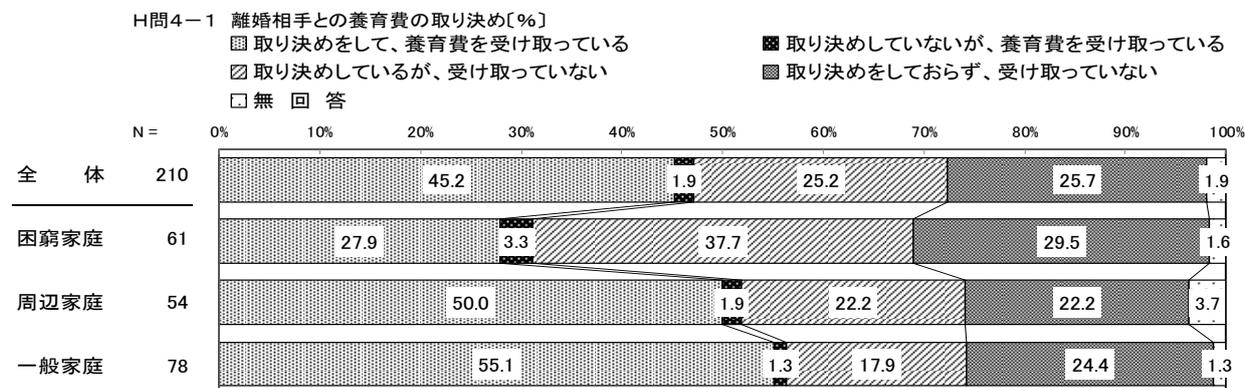
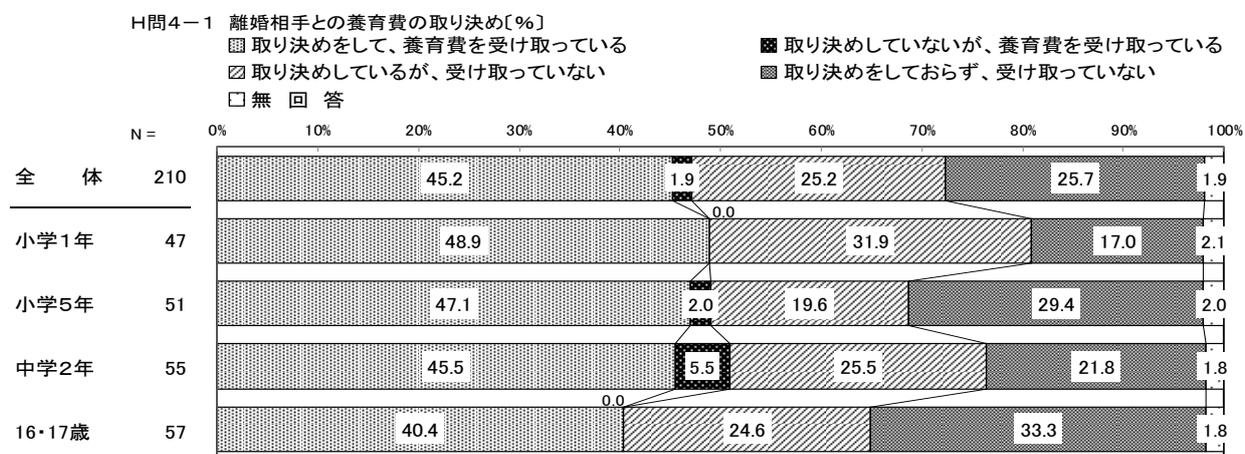


問 4-1 前問で「2 離婚」を選んだ場合、離婚相手と子どもの養育費の取り決めをしていますか。また養育費を現在受け取っていますか。

養育費の『取り決めをしている』（「取り決めをして、養育費を受け取っている」と「取り決めしているが、受け取っていない」の計）が全体では70.4%と多く、『取り決めをしていない』（「取り決めをしていないが、養育費を受け取っている」と「取り決めをしておらず、受け取っていない」の計）が27.6%である。また、養育費の受け取りについては、『受け取っている』（「取り決めをして、養育費を受け取っている」と「取り決めをしていないが、養育費を受け取っている」の計）は47.1%、『受け取っていない』（「取り決めしているが、受け取っていない」と「取り決めをしておらず、受け取っていない」の計）は50.9%である。

学年別では、小学1年で『取り決めをしている』が80.8%と多く、その他の学年は60%後半から70%前半となっている。また、養育費の受け取りについては、『受け取っていない』は16・17歳で57.9%と多く、その他の学年は40%後半で、『受け取っている』は中学2年で51.0%となっている。

生活困窮度別では、困窮家庭は『取り決めをしている』が65.6%と少なく、『受け取っている』が31.2%と少ない。



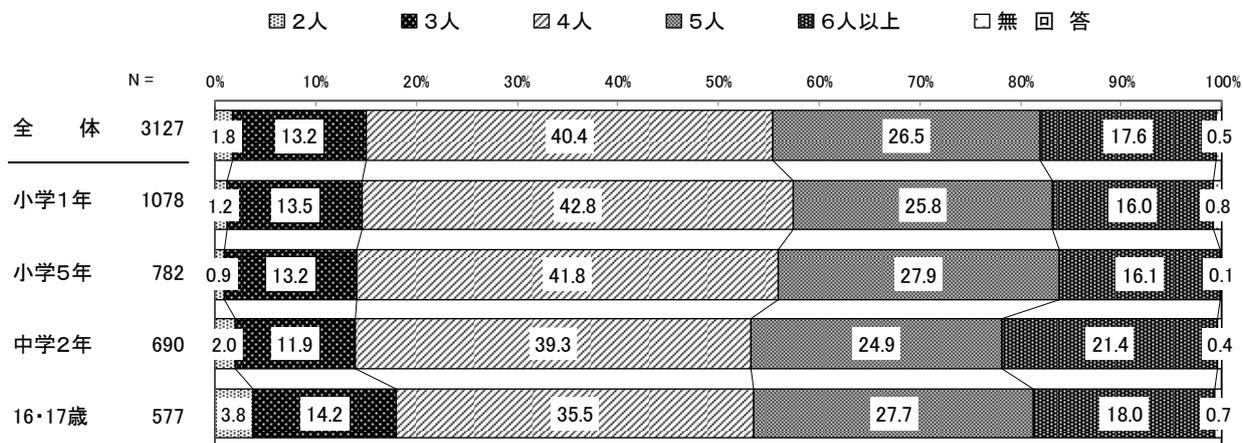
	養育費を受け取っている	養育費を受け取っていない	養育費の取り決めをしている	養育費の取り決めをしていない
小学1年	48.9%	48.9%	80.8%	17.0%
小学5年	49.1%	49.0%	66.7%	31.4%
中学2年	51.0%	47.3%	71.0%	27.3%
16・17歳	40.4%	57.9%	65.0%	33.3%
困窮家庭	31.2%	67.2%	65.6%	32.8%
周辺家庭	51.9%	44.4%	72.2%	24.1%
一般家庭	56.4%	42.3%	73.0%	25.7%

問 5 お子さんと同居しているご家族の人数を教えてください(あなたとお子さんも含む)。単身赴任しているご家族や学業のために世帯を離れているお子さんがいる場合には、ご家族の人数に含めてお考えください。

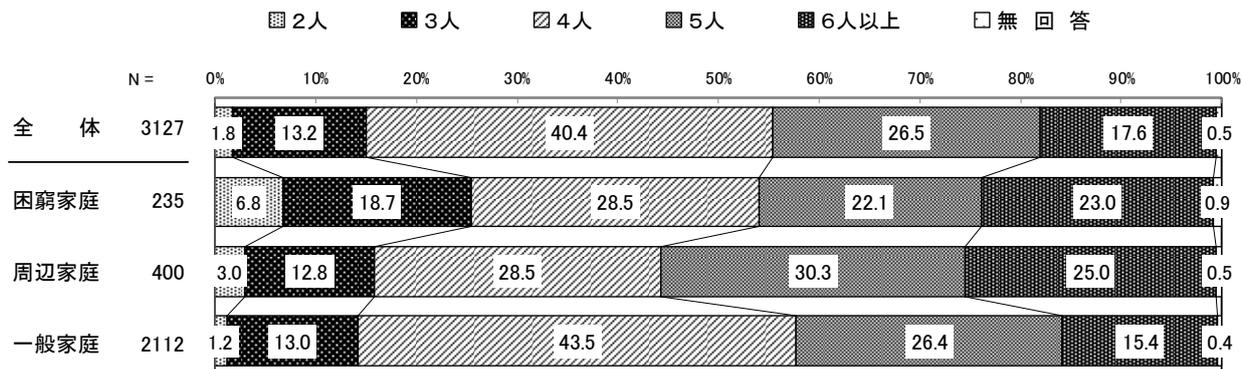
同居家族の人数は、「4人」家族が40.4%で、平均世帯人数は4.5人となっている。

生活困窮度別では、困窮家庭で「2人」「3人」の回答割合が他の区分と比べてやや多い。

H問5 世帯人数(回答者・子どもを含む)〔%〕



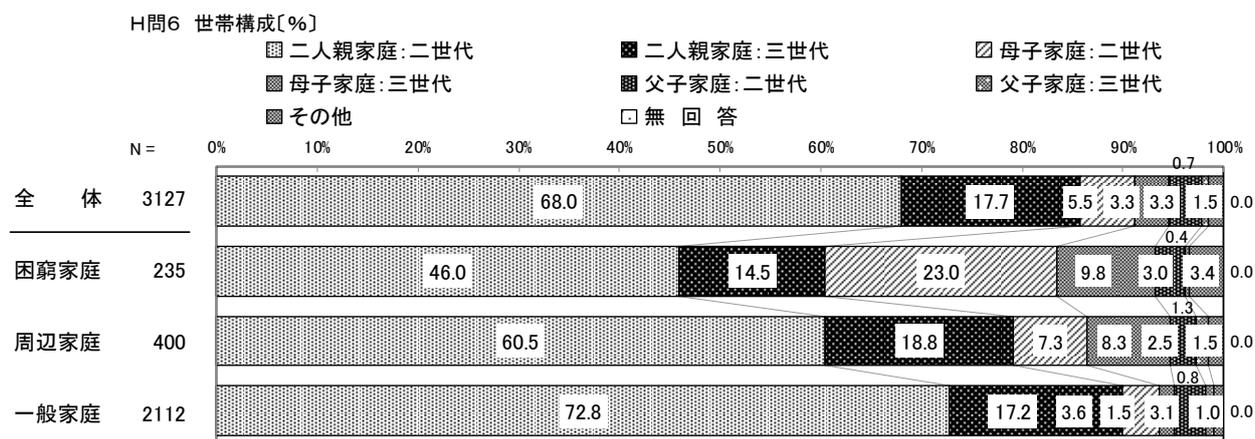
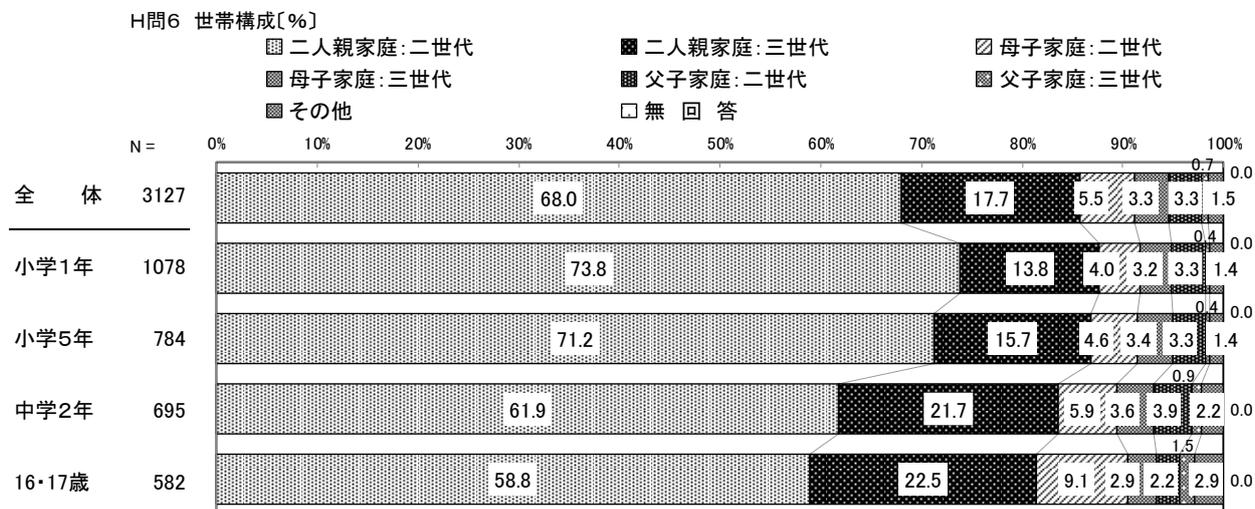
H問5 世帯人数(回答者・子どもを含む)〔%〕



問 6 お子さんと同居しているご家族の方は、どなたですか。それぞれ、人数もお教えてください。(単身赴任中の家族や学業のために世帯を離れているお子さんを含む)

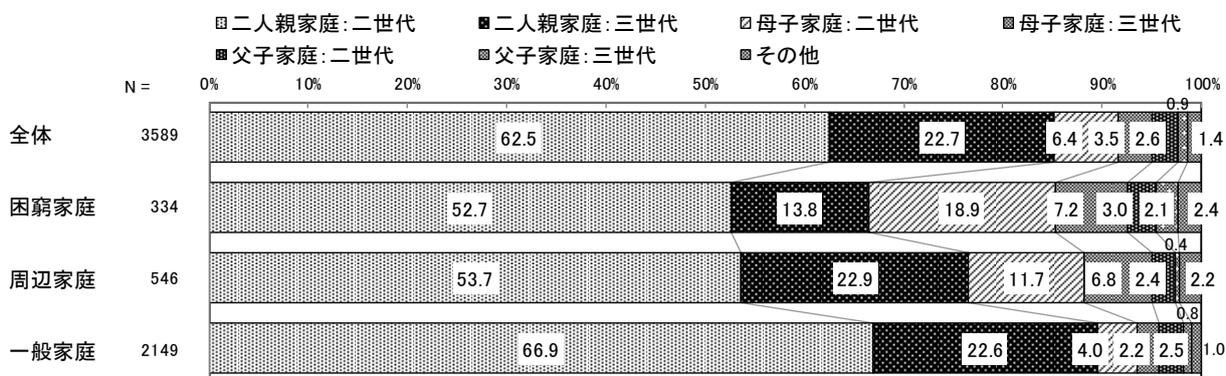
世帯構成は、「二人親二世代」が 68.0%と多く、「二人親三世代」が 17.7%である。母子または父子のひとり親世帯は二世代・三世代世帯を合わせて 12.8%である。

生活困窮度別では、困窮家庭で「母子家庭：二世代」が 23.0%と特に多い。



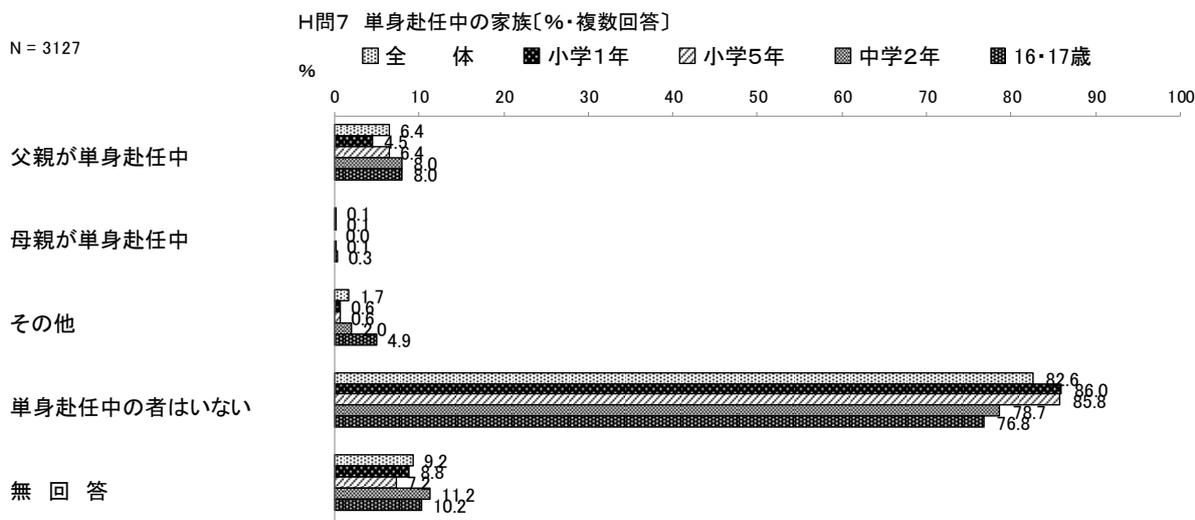
[参考: 前回調査結果]

(H29調査) 世帯構成



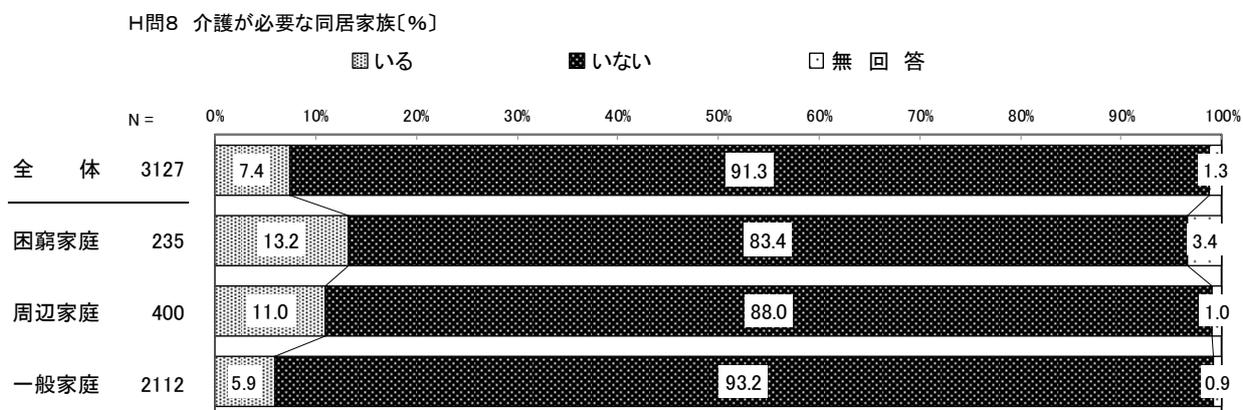
問7 あなたのご家族のうち、現在単身赴任中の方はいらっしゃいますか。

『単身赴任中の者がいる』（「父親が単身赴任中」と「母親が単身赴任中」の計）が6.5%、「単身赴任中の者はいない」が82.6%である。



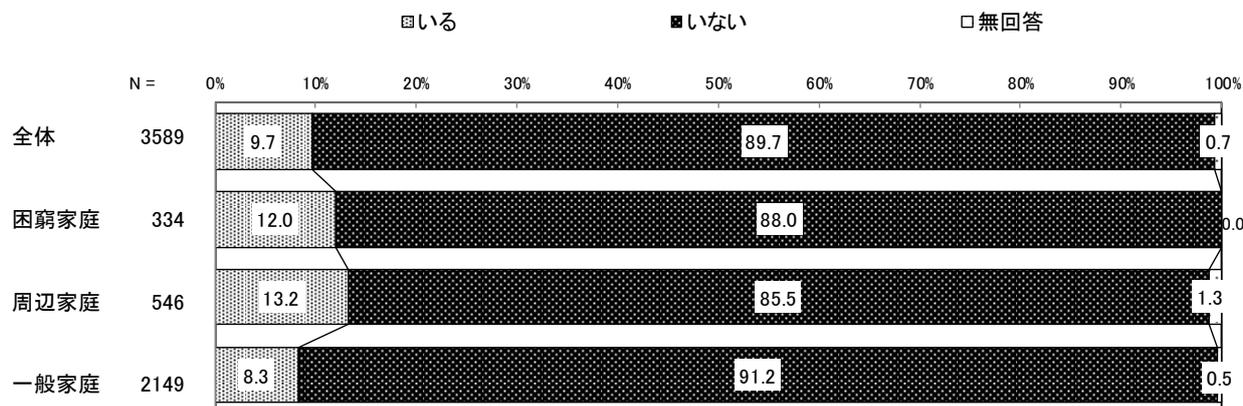
問8 お子さんと同居しているご家族の中に、高齢であったり障がいがあったりするなど、介護が必要な方はいますか。

家族の中に介護が必要な方がいるかについて、「いる」が7.4%、「いない」が91.3%となっている。生活困窮度別では、「いる」が困窮家庭で13.2%、周辺家庭で11.0%とやや多い。



[参考: 前回調査結果]

(H29調査) H問7 家族の中に介護が必要な人の有無[%]



問 9 あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。また、aが「1 頼れる人がいる」場合、それはだれですか。

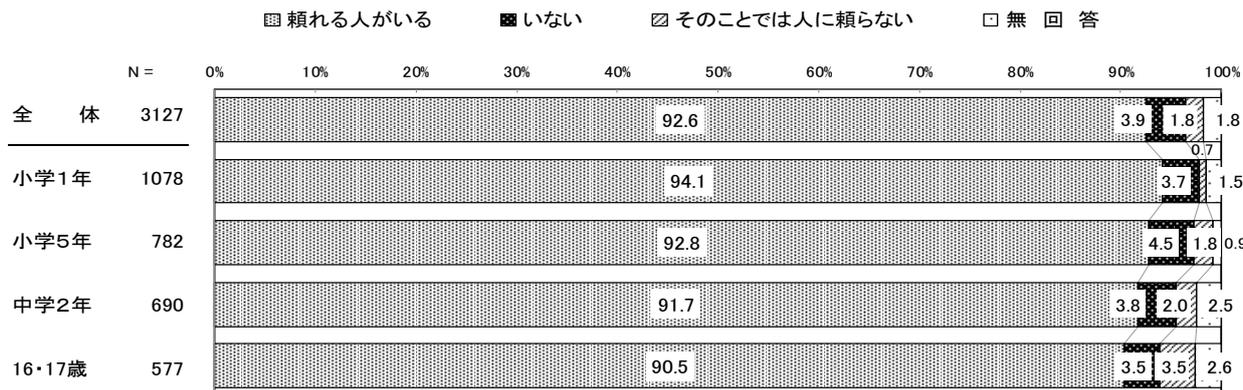
[子育てに関する相談]

子育てに関する相談で「頼れる人がいる」は 92.6%、「いない」は 3.9%となっている。頼れる人は「家族・親族」が 92.8%と最も多い。

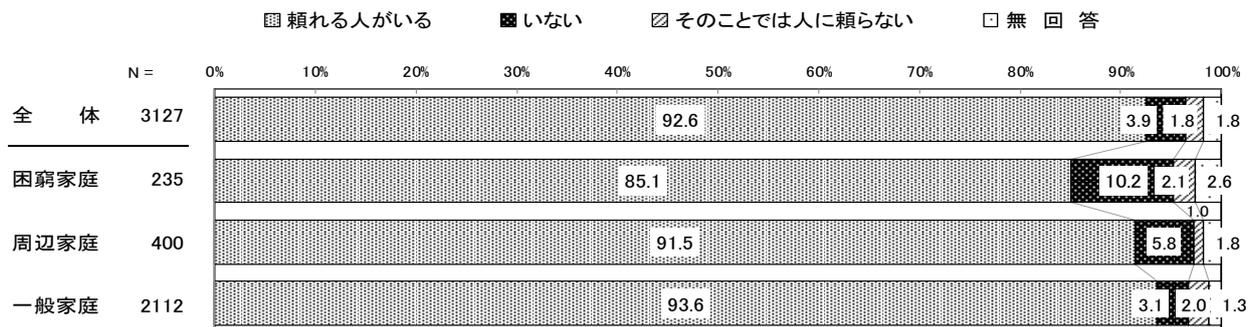
学年別では、いずれの学年の保護者も 90%以上が「頼れる人がいる」と回答している。頼れる人は「家族・親族」が 90%以上である。

生活困窮度別では、「いない」が困窮家庭で 10.2%と他の区分と比べて多い。

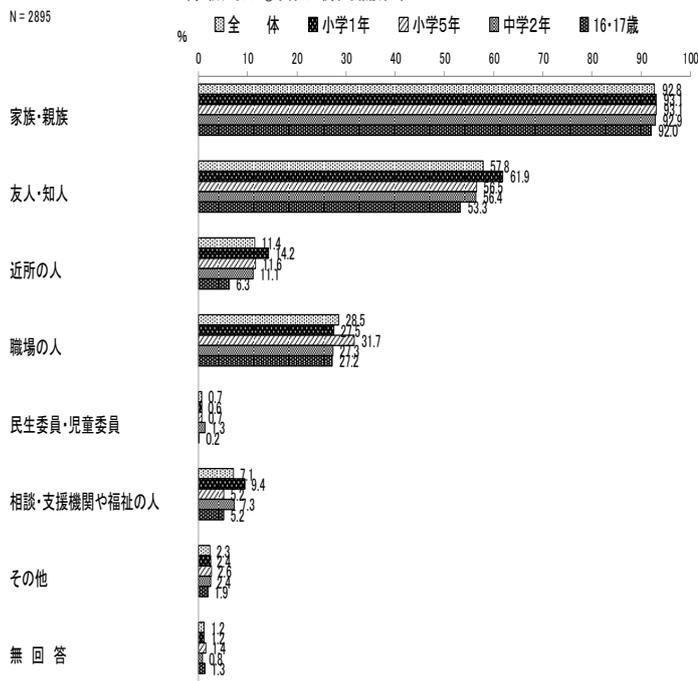
H問9頼れる人の有無 ①子育てに関する相談[%]



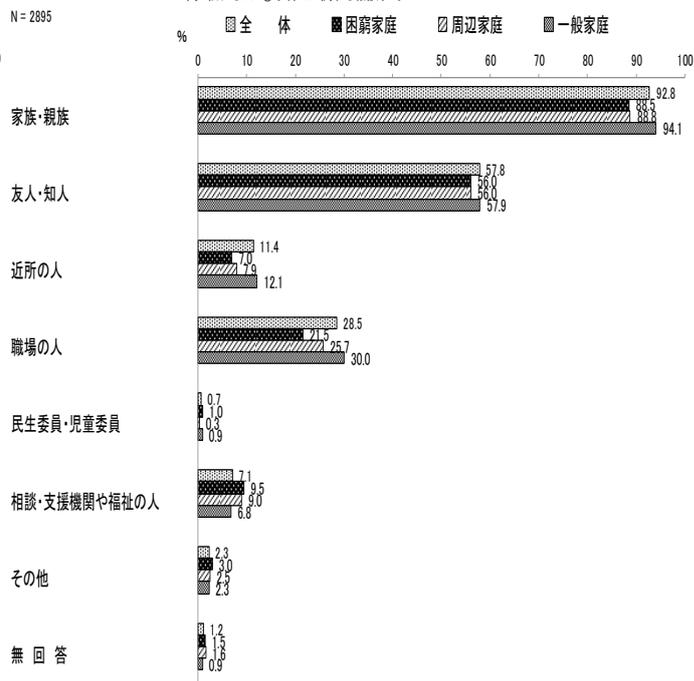
H問9頼れる人の有無 ①子育てに関する相談[%]



H問9頼れる人 ①子育てに関する相談[%]



H問9頼れる人 ①子育てに関する相談[%]

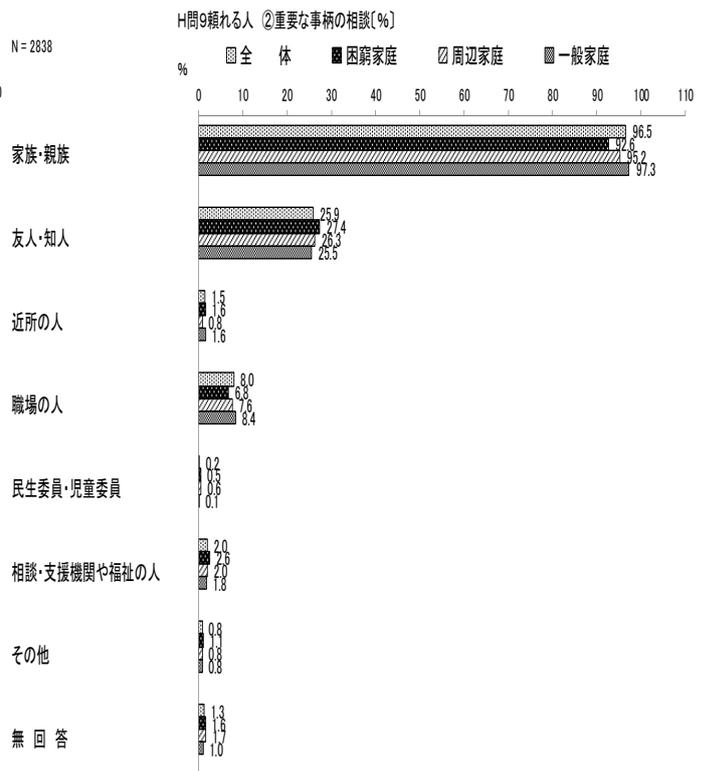
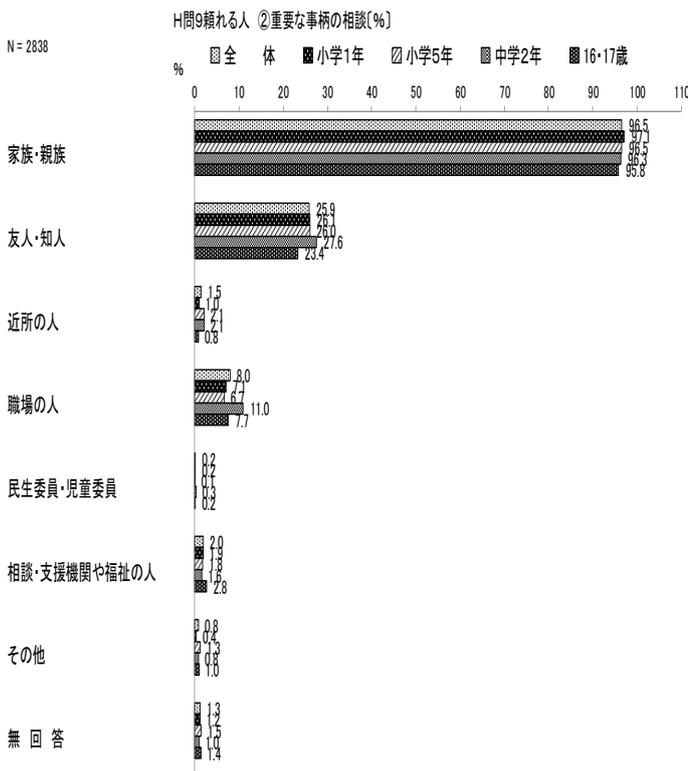
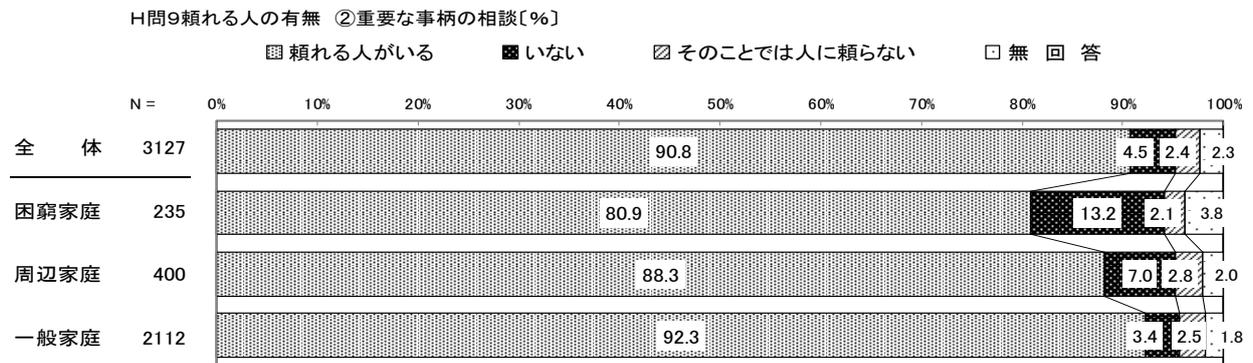
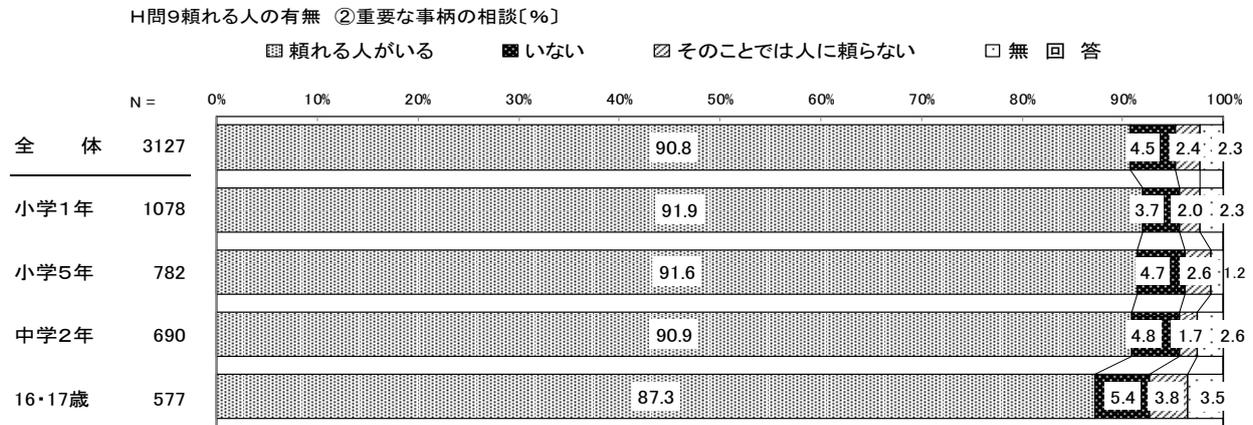


[重要な事柄の相談]

重要な事柄の相談で「頼れる人がいる」は 90.8%、「いない」は 4.5%となっており、頼れる人は「家族・親族」が 96.5%と多い。

学年別では、いずれの学年の保護者も 90%前後が「頼れる人がいる」と回答している。頼れる人は「家族・親族」が 95%を超えている。

生活困窮度別では、「いない」が困窮家庭で 13.2%と他の区分と比べて多い。

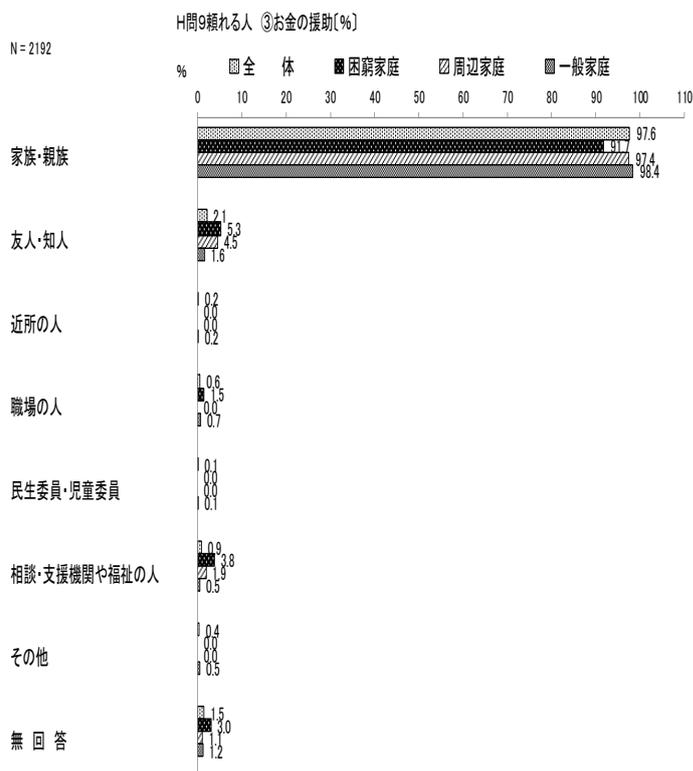
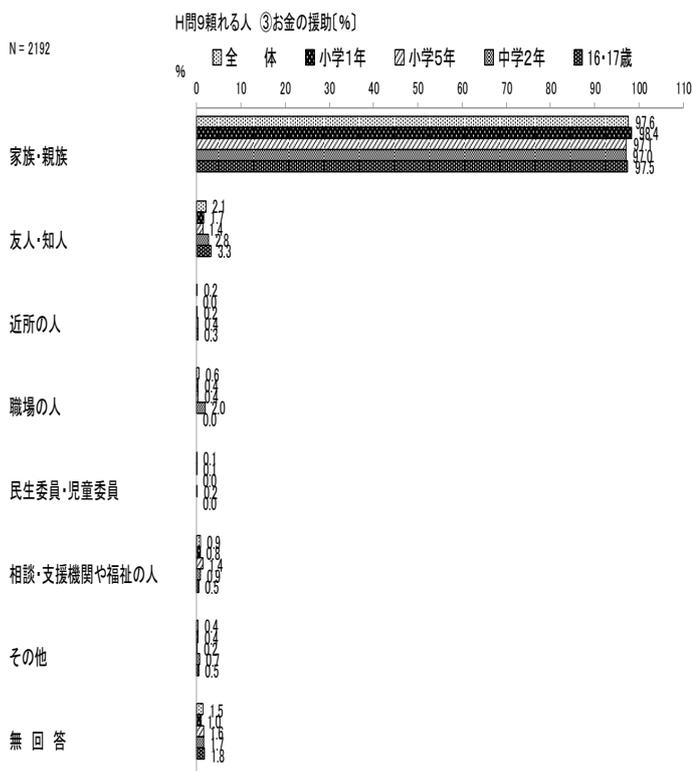
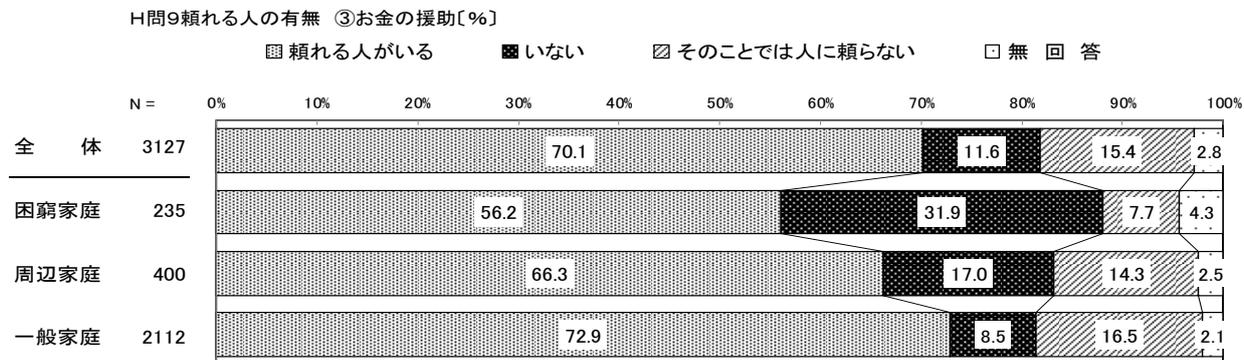
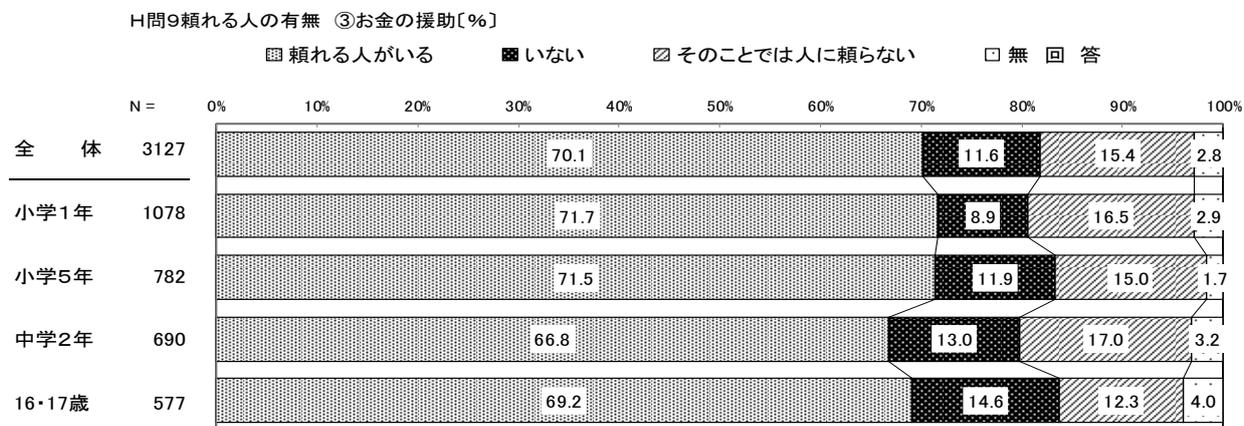


[お金の援助]

お金の援助で「頼れる人がある」は 70.1%、「いない」は 11.6%となっており、頼れる人は「家族・親族」が 97.6%である。

学年別では、いずれの学年の保護者も 70%前後が「頼れる人がある」と回答している。頼れる人は「家族・親族」が 97%以上と多い。

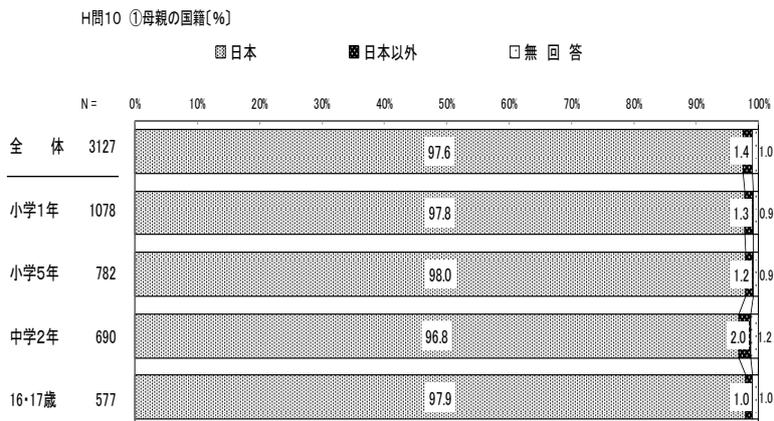
生活困窮度別では、「いない」が困窮家庭で 31.9%と他の区分と比べて多い。



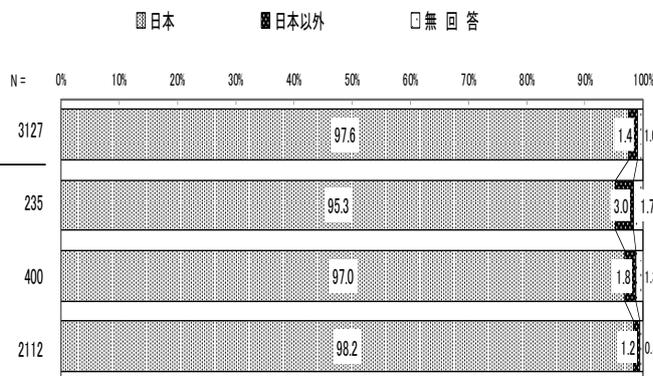
問 10 お子さんのご両親の国籍を、それぞれ教えてください。

学年別では、母親・父親の国籍はそれぞれ、いずれの学年もほとんどが「日本」と回答している。

[母親]

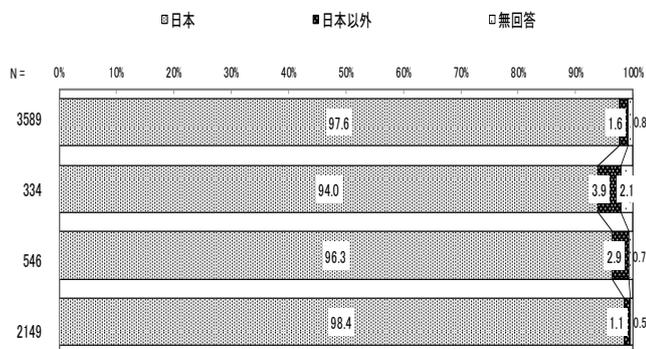


H問10 ①母親の国籍[%]

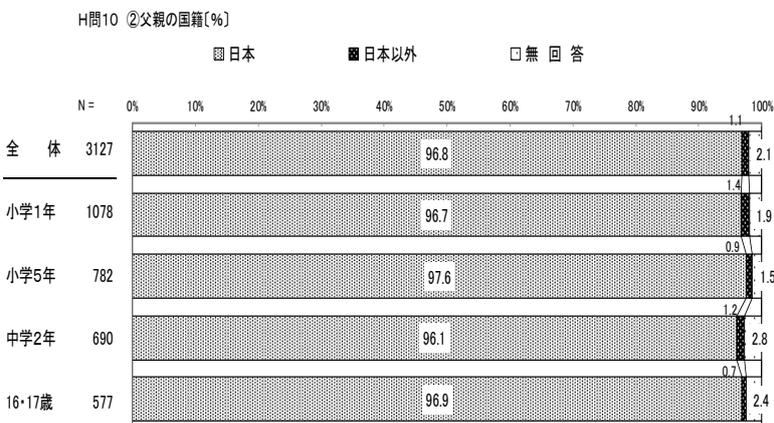


[参考: 前回調査結果]

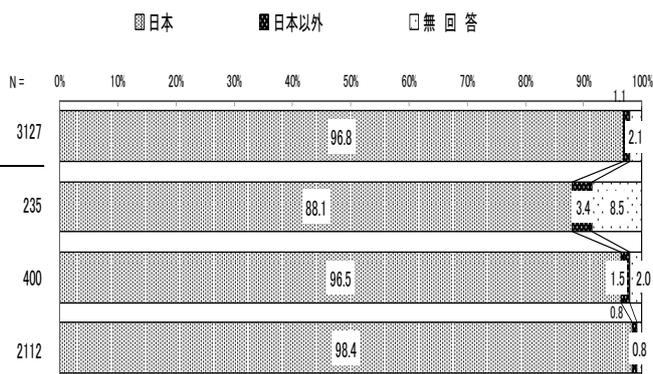
(H29調査) H問9 子どもの両親の国籍(母親)[%]



[父親]

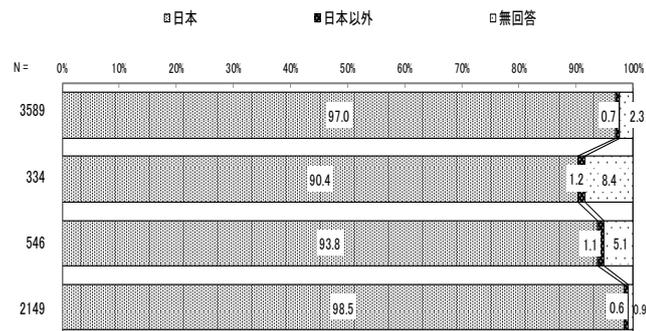


H問10 ②父親の国籍[%]



[参考: 前回調査結果]

(H29調査) H問9 子どもの両親の国籍(父親)[%]



問 11 あなたの世帯で、次のような公的年金、社会保障給付金の1回あたりの支給額はいくらですか。

1) 児童手当

「受給している」が71.4%で、「受給していない」が12.8%である。

2) 児童扶養手当

「受給している」が4.4%で、「受給していない」が59.5%である。

生活困窮度別では、困窮家庭で「受給している」が20.9%と他の区分に比べて多い。

3) 特別児童扶養手当

「受給している」が3.7%で、「受給していない」が61.1%である。

生活困窮度別では、困窮家庭で「受給している」が6.0%と他の区分に比べて多い。

4) 年金（遺族年金、老後年金など）

「受給している」が3.8%で、「受給していない」が58.8%である。

生活困窮度別では、生活困難家庭で「受給している」が7%台となっており、一般家庭に比べて多い。

5) 生活保護

「受給している」が0.1%で、「受給していない」が63.7%である。

生活困窮度別では、困窮家庭で「受給している」が1.2%となっている。

N=3,127

(%)		受給している	受給していない	無回答
児童手当	全体	71.4	12.8	15.8
	困窮家庭	74.0	11.5	14.5
	周辺家庭	71.7	10.8	17.5
	一般家庭	76.4	14.4	9.2
児童扶養手当	全体	4.4	59.5	36.1
	困窮家庭	20.9	49.8	29.4
	周辺家庭	8.0	54.8	37.2
	一般家庭	2.4	65.1	32.5
特別児童扶養手当	全体	3.7	61.1	35.2
	困窮家庭	6.0	62.1	31.9
	周辺家庭	3.7	60.3	36.0
	一般家庭	3.7	64.7	31.6
年金 (遺族年金、 老齢年金など)	全体	3.8	58.8	37.4
	困窮家庭	7.2	60.0	32.8
	周辺家庭	7.0	55.8	37.2
	一般家庭	3.3	62.8	33.9
生活保護	全体	0.1	63.7	36.2
	困窮家庭	1.2	66.0	32.8
	周辺家庭	0.0	62.8	37.2
	一般家庭	0.0	67.2	32.8

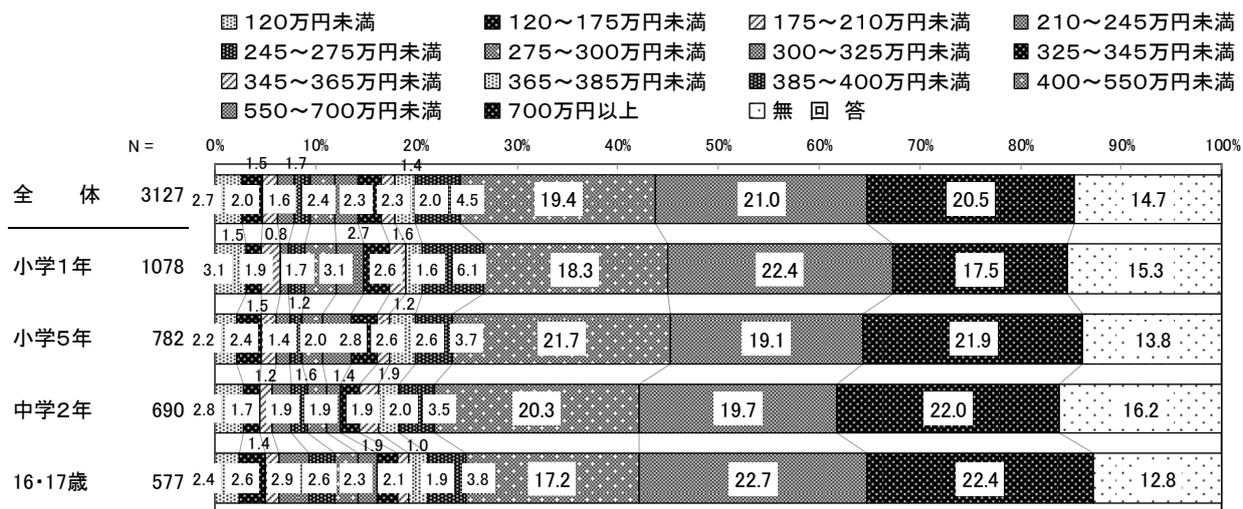
問 12 前年(2021年1～12月)のあなたの世帯全体の可処分所得(手取り)総額は、合計でおよそいくらですか。就労による所得(会社員の方等は住民税を引く)に加え、児童手当・児童扶養手当等・雇用保険等の支給額や、特別定額給付金(新型コロナウイルスに係る給付金)、親族等からの仕送り等を足した金額でお答えください。

世帯所得は、「400～550万円未満」が19.4%、「550～700万円未満」が21.0%、「700万円以上」が20.5%、400万未満は24.4%などとなっている。

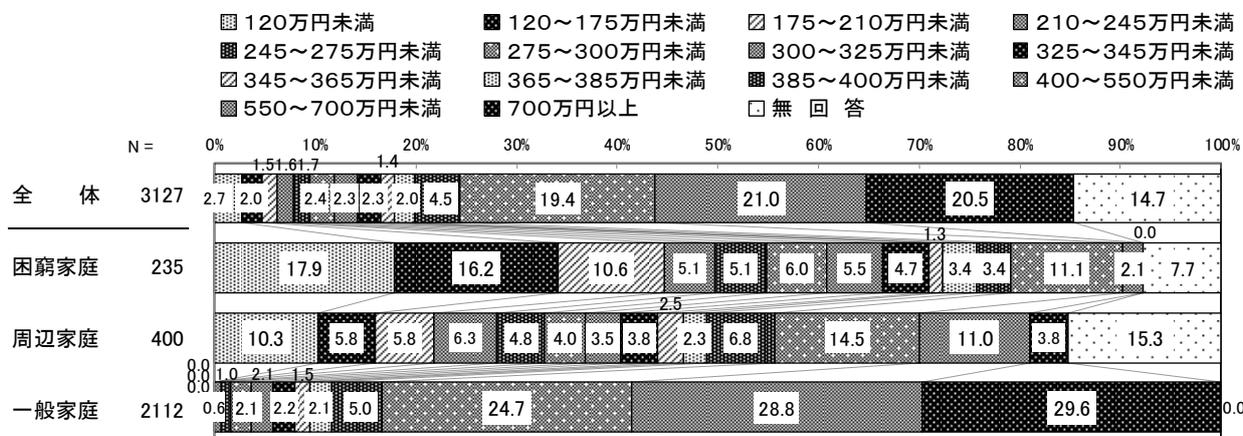
生活困窮度別では、一般家庭と生活困窮家庭を比べると400万円以上で割合の差が開いている。

[世帯所得]

H問12 前年の世帯全体の可処分所得総額[%]

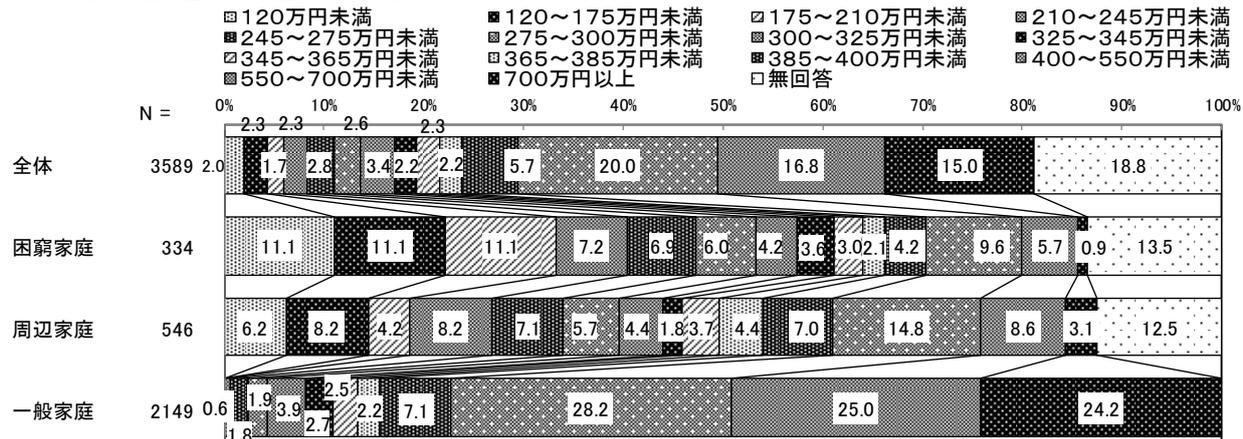


H問12 前年の世帯全体の可処分所得総額[%]



[参考: 前回調査結果]

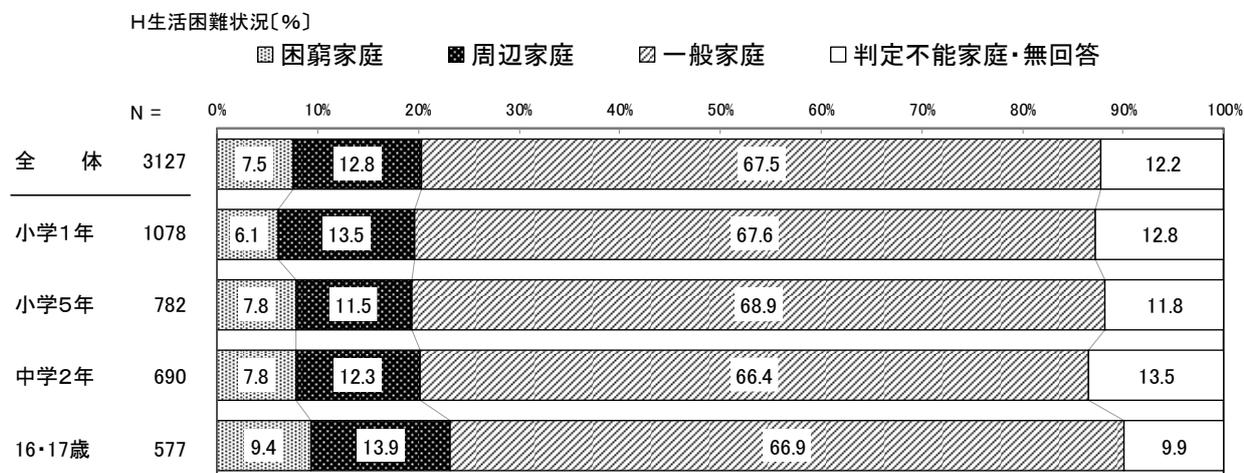
(H 29調査) 世帯全体の可処分所得[%]



[生活困難状況]

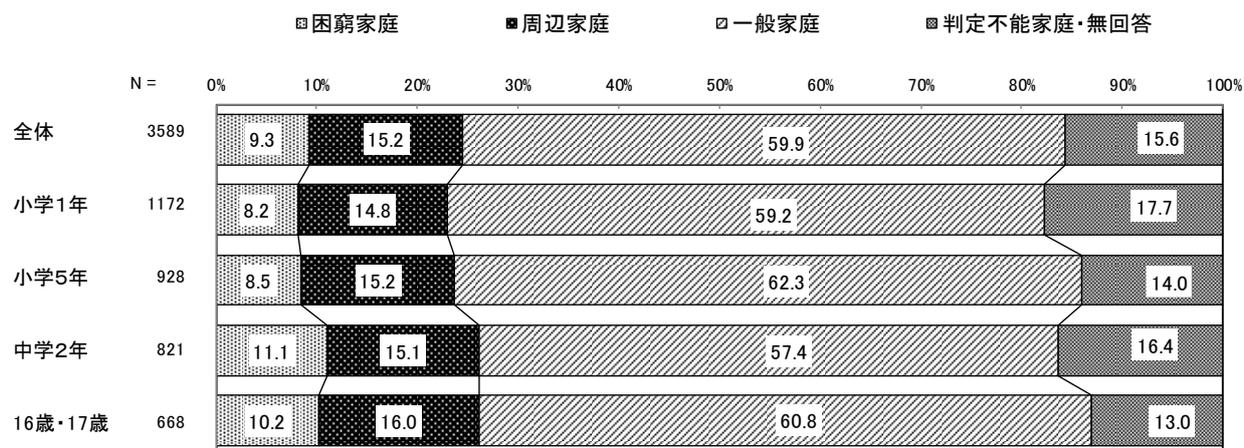
生活困難状況は、「一般家庭」が 67.5%、「周辺家庭」が 12.8%、「困窮家庭」が 7.5%となっている。前回と比べて、「一般家庭」の割合が多くなり、生活困難家庭（「困窮家庭」と「周辺家庭」の計）の割合が少なくなっている。

学年別では、16・17 歳で「困窮家庭」が 9.4%、「周辺家庭」が 13.9%と他の学年よりやや多い。



[参考: 前回調査結果]

(H29調査) 生活困難状況[%]



[世帯別の現在の暮らしの状況]

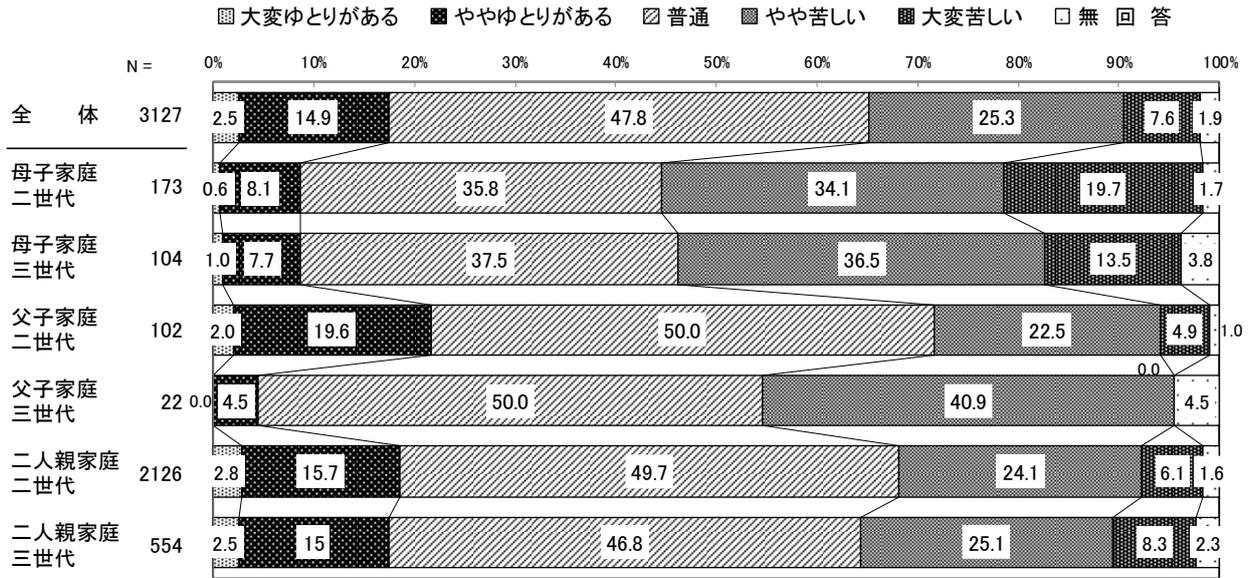
問 22 現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。

世帯別の現在の暮らしの状況をどのように感じるかについては、「大変ゆとりがある」が 2.5%、「ゆとりがある」が 14.9%、「普通」が 47.8%となっており、合わせて 65.2%となっている。他方で、「やや苦しい」が 25.3%、「大変苦しい」が 7.6%となっており、合わせて 32.9%となっている。

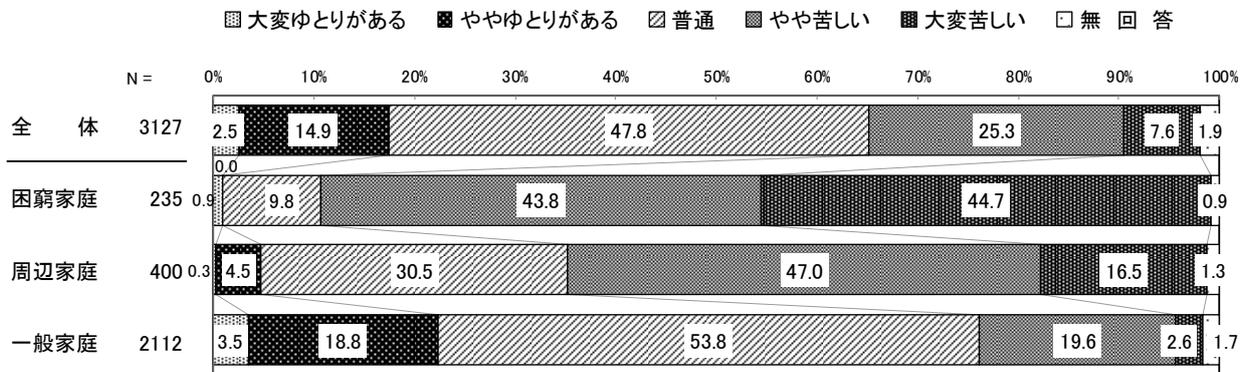
世帯別では、『苦しい』と感じるは、二人親家庭の二世帯世帯で 30.2%、三世帯世帯で 33.4%である。母子家庭三世帯世帯は『苦しい』と感じるが 50.0%、母子家庭二世帯世帯では 53.8%と他の区分より多い。

生活困窮度別では、『苦しい』（「やや苦しい」と「大変苦しい」の計）と回答したのは、一般家庭で 22.2%だった一方で、周辺家庭で 63.5%、困窮家庭では 88.5%と大きな差が見られ、前回と回答割合に変化は見られなかった。

H問22 現在の暮らしの状況[%]



H問22 現在の暮らしの状況[%]



[参考: 前回調査結果]

(H 29調査) 現在の暮らしの状況[%]

